

八代地域管内概要



平成27年11月
熊本県南広域本部

八代地域振興局管内概要

目次

I 概況

1) 八代地域の現況	4
2) 管内地図	5
3) 組織・機構図	6
4) 運営方針	7

II 各部及び管内機関の取組み

1) 総務部	11
2) 保健福祉環境部	12
3) 農林水産部	13
4) 土木部	14
5) 八代港管理事務所	15
6) 氷川ダム管理所	15

III データ

1) 面積	17
2) 人口	17
3) 福祉医療	20
4) 産業と雇用	23
5) 農業	25
6) 林業	30
7) 水産業	33
8) 商業	36
9) 工業	38
10) 港湾	40
11) 観光	42
12) 基盤整備	44

I 概況

八代地域の現況

(1) 地勢

- ・八代地域は八代市・氷川町の1市1町で構成され、南北約35km・東西約50kmに広がり、面積は約714km²で県土の約10%を占める。
- ・一級河川球磨川・氷川河口の沖積平野と干拓地で形成された西の平野部と、九州山地の脊梁地帯を形成する東の山地に大別される。

(2) 人口

- ・平成25年実行動態調査によると管内人口は141,881人（八代市：129,594人、氷川町：12,287人）で、県人口の約7.9%を占める。）
- ・管内人口を年齢3区分別に見ると、年少人口比率が12.5%（県全体13.7%）、老年人口比率が30.4%（県全体27.2%）であり、県全体よりも少子高齢化が進行している。

(3) 福祉医療

- ・平成26年の認定率は八代市で19.7%、氷川町で18.4%といずれも県全体(20.4%)を下回っている。
- ・管内の保健医療施設数は219施設(八代市:203、氷川町:16)で県全体の8.6%を占める。

(4) 産業

- ・平成22年国勢調査で産業別の就業人口を見ると、第1次産業への就業者が15.2%（県全体10.2%）を占め、特に農業が盛んな地域である。
- ・平成24年度市町村民所得推計によれば、県内総生産額に占める八代地域の割合は約7.0%であるが、第1次産業に限ると県内の15.3%を占めている。

(5) 農林水産業

- ・平成25年度の作付面積では、トマト、イチゴ、冬キャベツ、パレイショ、ブロッコリー、晩白柚、いぐさが県内（11管内）で第1位となっている。特に、トマト・晩白柚・いぐさは全国有数の生産地となっている。
- ・管内の民有林面積は約4万haで、県内民有林面積に占める割合は10.2%である。
- ・平成25年の八代管内漁獲量は306トンで、県全体に占める割合は1.4%である。

(6) 商工業

- ・平成24年経済センサス活動調査では、管内の年間商品販売額は209,851百万円で県内の6.2%を占めている。
- ・平成26年工業統計調査(速報)では、製造品出荷額は241,244百万円で、県内の9.8%を占めている。
- ・平成26年八代港コンテナ取扱量は18,210TEUで、過去最高の取扱量となった。

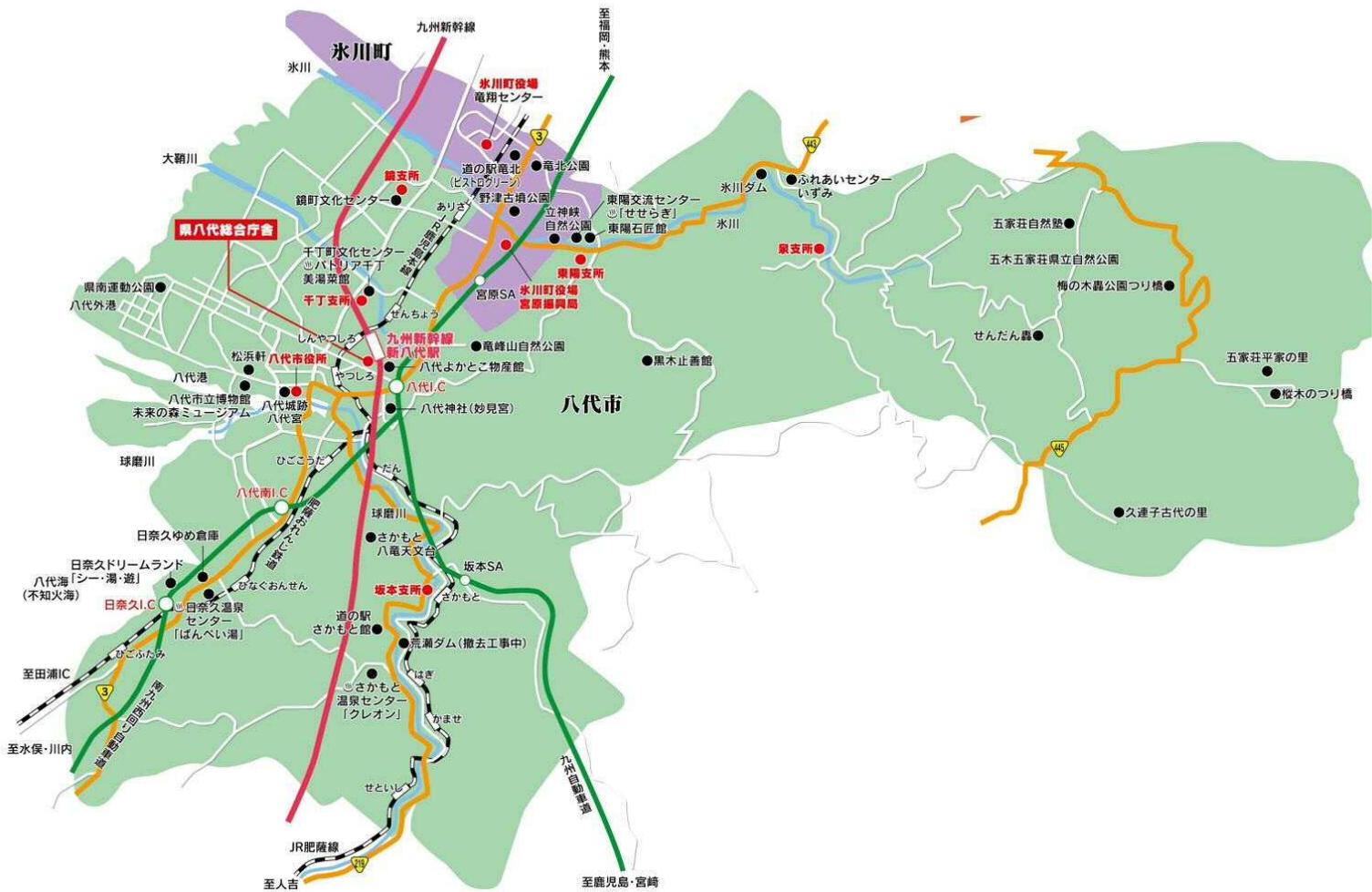
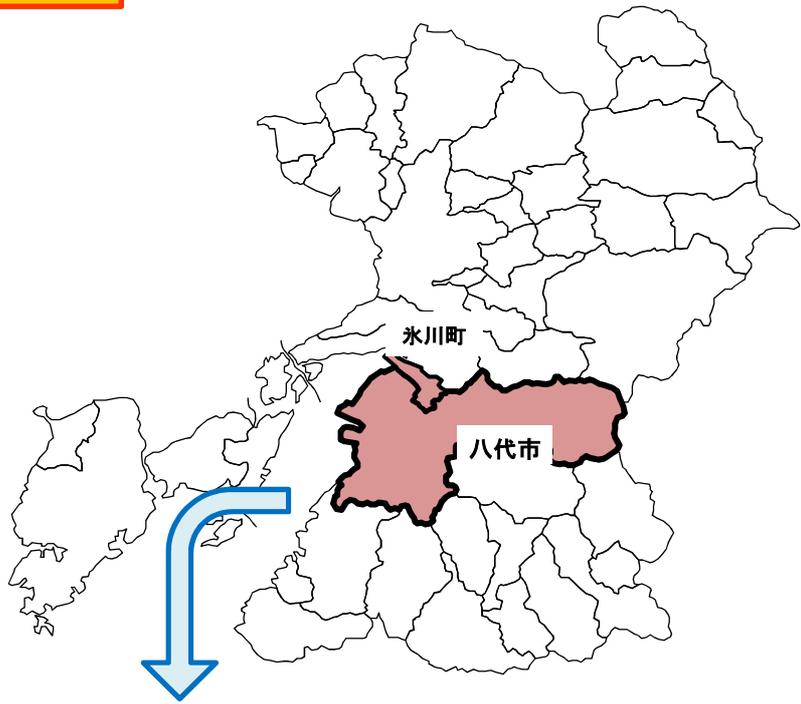
(7) 観光

- ・平成25年熊本県観光統計によると、管内を訪れた観光入込客数は3,629千人(県内シェア5.9%)で、うち宿泊客は219千人(県内シェア3.2%)であった。
- ・平成21年時と比較すると、観光入込客数は1.1倍(294千人増)、宿泊客は1.1倍(20千人増)となった。

(8) 基盤整備

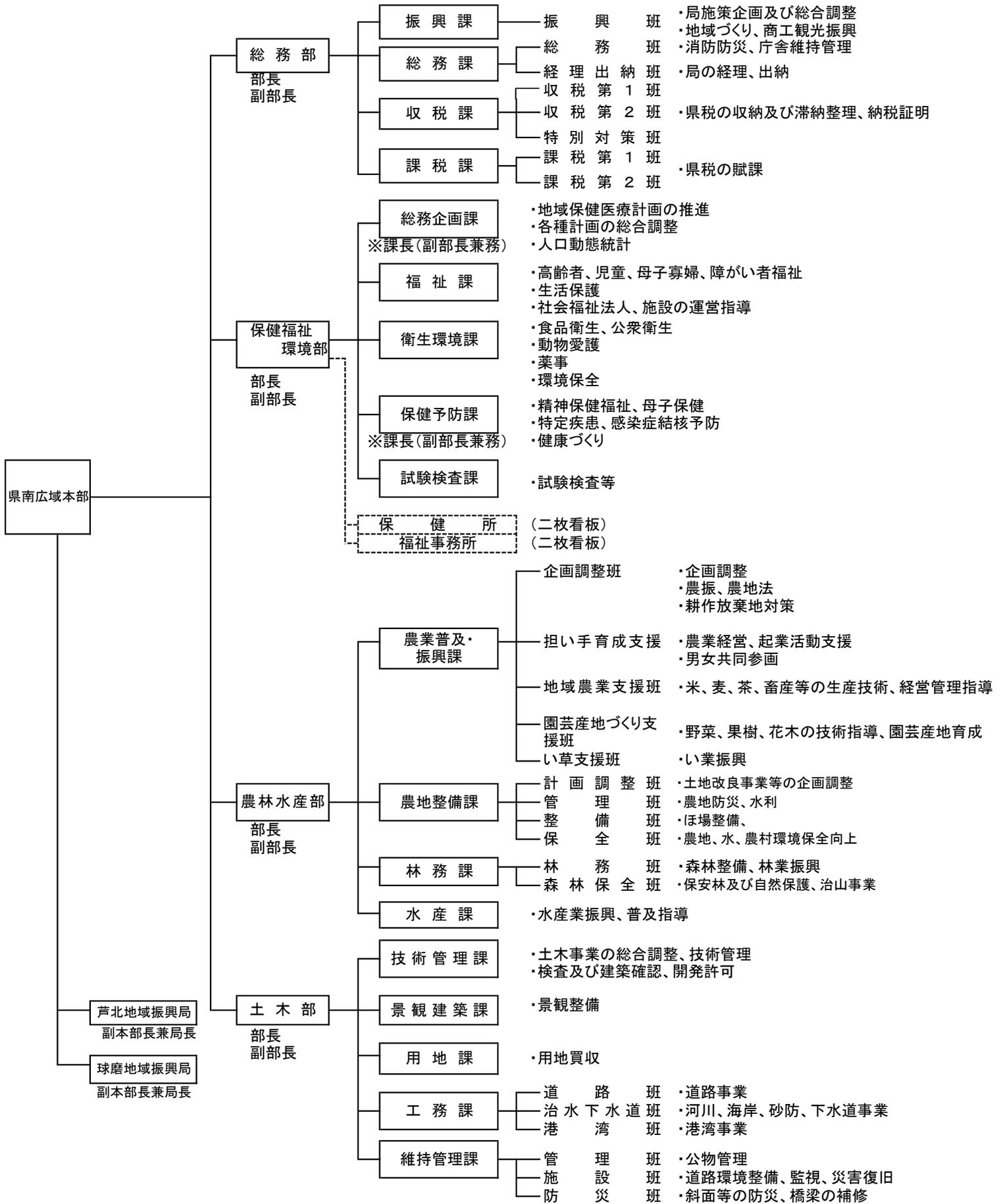
- ・鉄道は九州新幹線、JR鹿児島本線・肥薩線、肥薩おれんじ鉄道が南北に走行している。
- ・道路は九州自動車道、南九州西回り自動車道、国道3号・219号・443号・445号が整備されている。
- ・港湾は物流拠点として、県内最大の貨物取扱量を誇る八代港を有している。

八代地域振興局管内地図



県南広域本部(八代地域振興局)組織・機構図

H27.4.1.現在



平成27年度県南広域本部運営方針

H27. 4. 1 県南広域本部

1 基本的な考え方

県南広域本部は、県政の基本方針である「幸せ実感くまもと4カ年戦略」及び「政令指定都市誕生後の県内各地域の将来像」に基づき、八代、水俣・芦北、人吉・球磨の3地域が有する優れた地域資源を最大限活用し、連携して地域の活性化に取り組むこととする。

加えて、“人口減少と地域経済縮小の克服”と“まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立”を目指す市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定支援と当該戦略に基づく事業の推進は、県政の新たな重要課題として取組みを進める必要がある。

県南広域本部では、「フードバレーイノベーション～可能性への挑戦～」を旗印に、引き続き事業の重点化を図りつつ、県政の重要課題である「県南振興」、「水俣・芦北地域振興計画」の着実な推進、「五木村の振興」に取り組むこととともに、管内市町村における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」等の策定に係る支援等に、総力をあげて取り組むものとする。

2 広域本部体制による業務の推進

広域本部体制の円滑な運営

- ・ 県南広域本部正副本部長会議及び部長等会議において、情報・認識の共有を図りつつ課題へ対応する。
- ・ 危機管理演習等を実施することにより危機管理機能を強化し、県南広域本部で情報を共有しながら、危機事案に迅速かつ適切に対応する。

広域業務の円滑な実施

○効果的・効率的に県民サービスを提供するため、多くの経験と知識を要する広域業務について専門性を高める。

(広域業務の例)

- ・ 広域的な地域振興、観光振興に関する企画、調整
- ・ 県税の徴収、課税
- ・ 保健福祉環境行政に関する企画、調整
- ・ 地域福祉施策の推進
- ・ 社会福祉法人及び施設等の運営指導
- ・ 医療監視

- ・農林水産業に関する施策の企画、総合調整 ・農振除外手続き、農地転用許可等
- ・農地整備に係る企画、計画、調整 ・土地改良事業関係
- ・林務企画関係 ・水産関係
- ・土木工事検査 ・市町村の土木技術に関する指導、助言 等

○大規模災害発生時等における県南広域本部の支援体制を整備するなど、有事の際の動員力、機動性を確保する。

○上記2項目に加え、地域に密着することにより、県民サービスの向上を目指す。

業務改善への積極的な取組み

広域本部体制への移行を機に各種業務の見直しを行い、効果的、効率的な業務となるよう、更なる業務改善等に努める。

3 平成27年度県南広域本部重点取組

(1) 市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定支援

- ・熊本県版地方創生コンシェルジュ制度などに基づき、県南広域本部と地域振興局が連携して市町村の総合戦略等の策定を支援

(2) 「県南広域本部フードバレー構想推進戦略」に位置づけられた取組み等の着実な推進

- ・6次産業化・農商工連携の活発化
- ・生産・流通体制の整備
- ・八代港の活用等による輸出の拡大
- ・首都圏等への販路拡大
- ・県南地域の特性を活かしたブランドの確立
- ・木材利活用の最大化

(3) 地域資源を活かした広域的連携による地域振興・観光振興

- ・くまもと県南広域観光連携推進会議を活用した推進方策等の具体化
- ・大型クルーズ船の寄港により生まれる県南地域における経済効果を最大化するための取組みの推進

- ・肥薩おれんじ鉄道やくま川鉄道等を活用した南九州をにらんだ県境連携を含む広域連携プロジェクトの実施
- ・各地域のビッグイベントなど県南地域の素材を活かした地域振興の推進

(4) 「第五次水俣・芦北地域振興計画」の着実な推進と「第六次水俣・芦北地域振興計画」の策定

- ・シーサイドロードや水俣広域公園整備、南九州西回り自動車道整備の働きかけ
- ・水俣・芦北地域雇用創造協議会を通じた産業振興、雇用創出
- ・第六次水俣・芦北地域振興計画の策定のための取組み

(5) 五木村の振興・球磨川流域の治水対策の推進

- ・「ふるさと五木村づくり計画」や「五木村生活再建基盤整備計画」の着実な実施
- ・国道445号等幹線道路の改良及び新規林道の開設支援
- ・河川改修等による球磨川流域の治水対策の推進

Ⅱ 各部及び管内 機関の取組み

八代地域の振興に向けた取組み 平成27年11月作成

総務部における重点的な取組み

○市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定支援

- ◆熊本県版地方創生コンシェルジュ制度等に基づいた市町村の総合戦略策定支援
 - 市町村の総合戦略に係る推進会議への参画
 - 熊本県の総合戦略等との調整
 - 広域連携に向けた市町村間の意見交換や事業検討の場をコーディネート



○ 県南広域本部フードバレー構想推進戦略の着実な推進

- ◆食産業における中間加工者等（県南地域に限定）と最終製品製造者（県南地域を中心とする県内業者）との商談会を企画。【1月中旬実施予定】
- ◆県南地域で生産された商品の販売促進、県南地域への交流人口拡大等を目的とした周遊キャンペーン「くまもと県南FOODonブラリ〜」の展開。
- ◆H26.3策定「県南広域本部 フードバレー構想推進戦略」の進捗管理を正副本部長会議等を活用して実施。



○ 広域的な地域振興・観光振興を推進するための体制整備 と効果的な取組みの推進

- ◆H26.7に設置された「くまもと県南広域観光連携推進会議」において、各構成機関が来年度以降の事業展開に向け情報共有等を実施。来年度から新型交付金を活用して広域観光連携推進事業を実施できるよう15市町村の調整などに取り組む。
- ◆今年度八代港に11隻の外国船籍大型クルーズ船が寄港予定。寄港に際し、地域づくり夢チャレンジ推進補助金やスクラムチャレンジ推進補助金等を活用して、おもてなし等を実施。



○ 八代地域の地域振興、観光振興の推進

- ◆地域づくり夢チャレンジ推進補助金を活用した地域づくりの推進

八代のみ	H23	H24	H25	H26	H27(10月現在)
件数	9	4	8	18	15
交付決定額(千円)	13,642	7,752	8,357	30,960	26,080



○ 県南広域本部体制下における円滑な業務の執行

- ◆危機管理体制の充実
 - 災害時における広域本部3振興局連携による危機管理・応援体制の整備
 - 災害待機と水防待機の合同実施による災害対応力の強化
 - 八代地方災害対策本部・警戒本部の設置、運営の円滑化

○ 県南地域における税収の確保

- ◆個人県民税の徴収向上対策
 - 県として、市町村の税収の確保、市町村の業務効率化・スキルアップ等について支援。
 - 県南15全市町村を対象とした併任徴収の取組み(平成27年度から追加=八代市(10月)・氷川町(7月))
- ◆滞納整理の強化
 - 差押えた自動車の公売会を新たに実施(1回目:6月実施、2回目:11月実施予定)

保健福祉環境部における重点的な取組み

地域保健医療の推進

地域の特性や実情に即した保健医療サービスの向上を図るため、地域の共通の指針を定め推進するための「第6次八代地域保健医療計画」を関係機関と協力して推進する。

施策の柱は、次の4項目。

- ①子どもの頃からの生涯を通じた健康づくり
- ②安心して暮らせる保健医療提供体制の整備
- ③保健医療関係の人材の確保と資質の向上
- ④健康危機管理に対応した体制づくり



健康危機管理対策

○健康危機管理マニュアルに基づいた体制整備

地域健康危機管理推進会議等を開催し、関係機関との円滑な協力・連携を確保する。また、緊急時に迅速な対応ができるよう訓練・研修会を実施し、関係職員の資質向上を図る。

○新型インフルエンザ対策

関係機関との情報共有・連携を行い、「熊本県新型インフルエンザ等対策行動計画」に基づく八代地域医療計画」に基づき、的確・迅速な対応ができる体制づくりを推進する。

食の安全安心対策

○食品取扱施設の監視指導及び食品検査の実施

食の安全安心に係る施策として、消費者の意見を反映しながら、食中毒防止事故対策として「平成27年度熊本県食品衛生監視指導計画」に基づき、食品取扱施設の監視指導及び食品検査を実施する。

○「食の安全安心フェスタ」の開催

民間・関係行政機関との協働による八代地域食の安全安心フェスタを開催し、地域住民を中心とした消費者への食の安全安心及び食育を推進する。



健康づくり対策

○こどもの頃からの健やかな食習慣の形成

健康食生活・食育推進会議を開催し、こどもの頃からの健やかな食習慣の形成のために関係団体での取り組みを推進するとともに、研修会、食育キャンペーン等を実施し生活習慣病予防のための普及啓発を図る。



○フッ化物応用によるむし歯予防対策の推進

乳幼児期及び学齢期に効果的なむし歯予防対策であるフッ化物応用の普及に向け、関係機関と連携し環境整備を図る。

農林水産部における重点的な取組み

平成27年度の重点目標(稼げる農林水産業への挑戦)

○農地集積の推進

八代地域においては、担い手の減少による農地の遊休化が懸念され、担い手への農地集積及び効率的な利用が求められている。

このため、「ふるさと・農地未来運動八代地域本部」を核に、「熊本県農地中間管理機構」と連携しながら、重点地区を設置して担い手への農地集積を推進する。

- ※重点地区の指定:H24年度 日奈久、北新地西区
- H25年度 平和、野津地区
- H26年度 北出、吉野地区
- H27年度 鶴喰、鹿島地区 計8ヶ所



平坦地域の水田

○トマト生産におけるICT導入

八代地域は温暖な気候を利用して約480haもの広大な農地においてトマトが栽培される全国的でも有数の産地である。

さらに産地力を強化するため、施設内の温度、湿度、炭酸ガス、日射量などのデータを活用し、生産・出荷・指導の効率化などを行うためのシステムを構築する。

※平成27年度実施計画： モデル農家設置による検討



複合環境測定装置

○農業基盤整備事業及び農地防災事業の推進

「農業者・農業技術・6次産業化」を常に念頭に置きつつ、農業用水・農地などの農業資源の維持・向上を図ることで、「稼げる農業」を実現する。

- ・農業基盤整備事業
- ・農地防災事業 (H27新規着手：竜北地区)



排水不良地



排水改良済

○森林整備及び木材利活用の推進

森林資源を活用するため、森林経営計画を策定し、搬出間伐を増やす。

一方、木材利活用のPRに勤め、木質バイオマス利用や木材輸出など新たな取組みを支援する。



木材市場



木材生産

○新たな養殖の導入による漁家の収益向上

収益性の高いカキ類の養殖や色落ちしにくく価格の高いアオノリ養殖を推進する。



マガキ

○アサリの漁獲量回復のための取組みの推進

資源管理に対する漁業者の意識啓発を行いながら、漁場管理や稚貝採集ネットの設置の推進により増産を図る。



アオノリ

土木部における重点的な取組み

交通・物流拠点の整備(アクション・アジア)

- 八代港では、大型化する国際コンテナ貨物船に対応した、フルガントリークレーンとコンテナヤードの整備拡張を行う。
- また、県内各港湾の航路及び泊地で発生する浚渫土砂の受け入れ先として、大築島北地区の築堤を整備する。



八代港

洪水から生命財産を守る社会資本の整備(災害に負けない熊本)

- 大鞠川の浸水被害の軽減を図るため、総合流域防災事業として、農林水産部と連携を図りながら、築堤、河道掘削、橋梁架替等の整備を進める。



大鞠川

安心安全な道路の確保(地域力を高める)

- 二見田浦線は、当該地区の生活幹線道路であるとともに、水俣・芦北地域の振興を目的としたシーサイドロード整備事業に位置づけられる路線。自動車の離合が困難な状況を解消し、地域住民の安心で安全な生活を確保するため、平成21年度から事業に着手。平成26年8月に埋立免許を取得し、工事施工中。



二見田浦線

- 国道445号は、当該地区の生命線となっている幹線道路であるとともに、五木・五家荘方面の主要観光道路。車道の拡幅により安全で快適な通行を確保するため、昭和62年から5工区に分けて道路改良事業を実施中。今年3月に泉・相良バイパス(八代管内)が完了し、現在、五家荘工区、椎原工区を施工中。



国道445号

八代港管理事務所における重点的な取組み

○外港 - 1.4m 供用岸壁の適切な利用調整

工事等により、大型船の荷役は、一定のルールの下、-1.4m岸壁の共同利用を実施中。大型クルーズ船も同岸壁を利用する事から、寄港にあたっては、貨物船優先を基本としながら、客船誘致側など各方面の関係者を含め、慎重に利用調整を行っていく。

○入出港船舶に係るテロ行為等防止のための国際埠頭保安施設の適切な維持管理及び制限区域の厳重な出入り管理

偽造防止対策が施された身分証明書の発行、緊急連絡網の整備、保安訓練等を実施するとともに、日頃から警備会社等関係者との連携を密にして、引続き制限区域内の出入り管理の徹底を図る。

○港湾道路、上屋(倉庫)等の港湾施設の維持管理の充実強化

日常のパトロールの充実及び利用者からの情報収集等により、危険箇所等の早期発見に努め、県南広域本部土木部と連携しながら、施設全体の長寿命化に向けた適切な維持管理を図っていく。

○コンテナターミナルの適正な維持管理

平成29年度のコンテナターミナル拡充強化に伴う取扱量の増加を見据えて、既存設備であるガントリークレーンやストラドルキャリア等の長寿命化に向け、細やかな維持管理を行う。



ガントリークレーン



ストラドルキャリア



八代外港コンテナターミナル

今後の計画

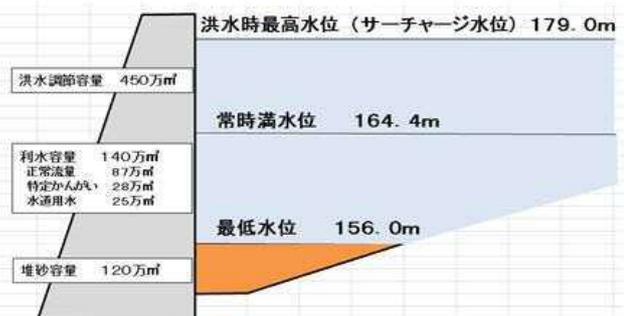
八代港は、本県の産業を支える物流の拠点港であり、アジア全体を視野に入れた多目的国際ターミナル港としての位置づけのもと、県内最大の港湾として、港湾施設の適切な維持管理を行い、港湾施設使用の円滑化と使用料収入の確保及び経費の節減を図ることとしている。

氷川ダム管理所における重点的な取組み

安全安心なダム管理

- 氷川ダムは、洪水調節と上水道用水の補給、かんがい用水の補給を目的として昭和50年に完成した多目的ダムで、平成22年には、より安全な洪水調節と下流の河川環境の保全を目的に再開発事業（堤体の2mかさ上げ）が完了した。
- 現在、建設当時から約40年が経過し、老朽化したダム管理施設の更新を順次行っている。

氷川ダム貯水池容量配分図



地域に開かれたダム管理

- ダム周辺及び施設をレクリエーションの場として開放すると共に、地域の市民団体と連携し、環境学習の場として利用している。

高校生による水質浄化作業



親子による水質検査



Ⅲ データ

(注) 計数は、それぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

面積

■土地利用

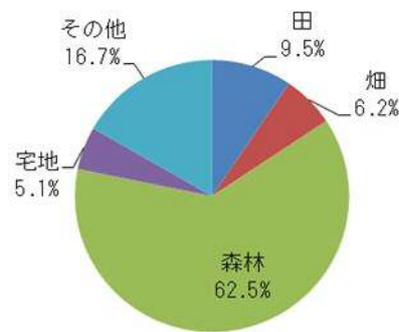
（資料）土地利用現況把握調査（県地域振興課、平成 24 年 10 月 1 日現在）
（単位：ha）

	田	畑	森林	宅地	その他	計
管内計	8,220	1,002	50,546	3,169	8,452	71,389
八代市	6,800	772	50,200	2,855	7,433	68,060
氷川町	1,420	230	346	314	1,019	3,329
県計	70,368	45,700	463,066	37,626	123,725	740,485

【管内の土地面積】



【県の土地面積】



○八代地域の面積は、71,389ha で、県面積の約 10%を占めている。

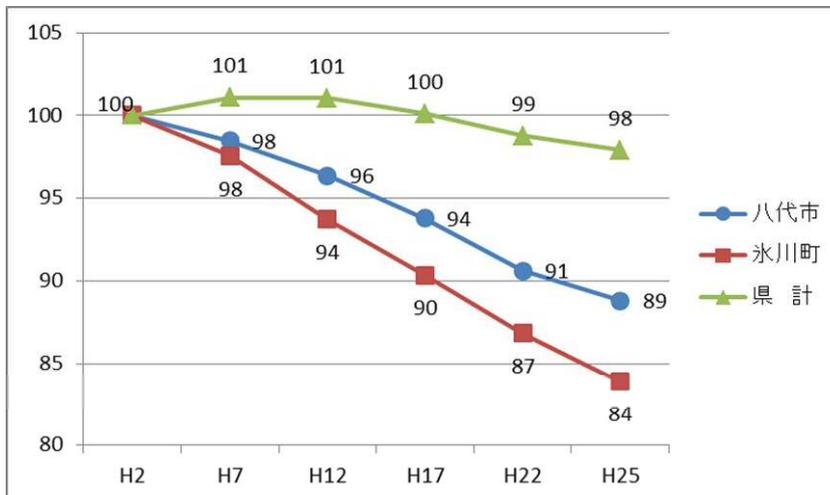
人口

■人口の推移・推計

（資料）国勢調査（各年 10 月 1 日現在）、H25 人口動態調査
（単位：人）

	H2	H7	H12	H17	H22	H25
管内計	160,605	157,999	154,380	150,118	144,981	141,881
八代市	145,959	143,712	140,655	136,886	132,266	129,594
氷川町	14,646	14,287	13,725	13,232	12,715	12,287
県計	1,840,326	1,859,793	1,859,344	1,842,233	1,817,426	1,801,495

【平成 2 年を 100 とした人口の推移】



○平成 25 年の管内人口の県人口に占める割合は約 7.8%である。

○平成 2 年人口と比較すると、県全体ではほぼ横ばいで推移しているが、八代市・氷川町は 1 割以上減少している。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■年齢3区分別人口

（資料）国勢調査（各年10月1日現在）、H25人口動態調査
（単位：人）

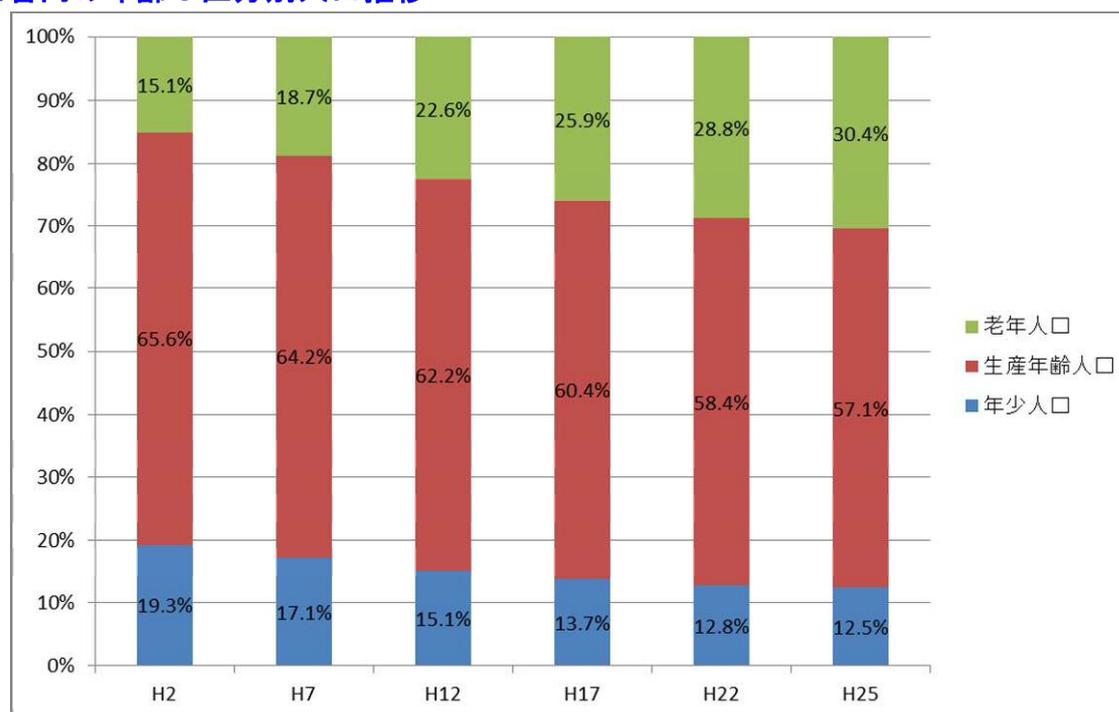
		H2	H7	H12	H17	H22	H25
年少人口 (0～14歳)	管内系	31,033	26,939	23,368	20,585	18,368	17,729
	八代市	28,131	24,496	21,347	18,876	16,842	16,275
	氷川町	2,902	2,443	2,021	1,709	1,526	1,454
生産年齢人口 (15～64歳)	管内計	105,236	101,377	96,012	90,477	83,866	80,956
	八代市	95,834	92,388	87,621	82,622	76,585	74,198
	氷川町	9,402	8,989	8,391	7,855	7,281	6,758
老年人口 (65歳以上)	管内計	24,212	29,530	34,919	38,798	41,276	43,196
	八代市	21,870	26,675	31,606	35,137	37,378	39,121
	氷川町	2,342	2,855	3,313	3,661	3,898	4,075
管内計		160,481	157,846	154,299	149,860	143,510	141,881
年少人口比率		19.3%	17.1%	15.1%	13.7%	12.8%	12.5%
生産年齢人口比率		65.6%	64.2%	62.2%	60.4%	58.4%	57.1%
高齢化率		15.1%	18.7%	22.6%	25.9%	28.8%	30.4%

※年齢不詳者を数に含んでいないため、17ページ「人口」の管内計と一致しない。

■熊本県全体

	H2	H7	H12	H17	H22	H25
年少人口比率	19.3%	17.3%	15.5%	14.3%	13.8%	13.7%
生産年齢人口比率	65.2%	64.3%	63.1%	61.8%	60.5%	59.1%
高齢化率	15.5%	18.3%	21.3%	23.7%	25.7%	27.2%

■管内の年齢3区分別人口推移



八代地域の現況（データで見る八代地域）

■ 65歳以上人口の推移

(資料) 国勢調査(各年10月1日現在)、H25人口動態調査
 ※()内は高齢化率(年齢3区分人口総数に占める65歳以上人口の比率)
 (単位:人)

	H2	H7	H12	H17	H22	H25
管内計	24,212 (15.1%)	29,530 (18.7%)	34,919 (22.6%)	38,798 (25.9%)	41,276 (28.8%)	43,196 (30.4%)
八代市	21,870 (15.0%)	26,675 (18.6%)	31,606 (22.5%)	35,137 (25.7%)	37,378 (28.6%)	39,121 (30.2%)
氷川町	2,342 (16.0%)	2,855 (20.0%)	3,313 (24.1%)	3,661 (27.7%)	3,898 (30.7%)	4,075 (33.2%)
県計	284,017 (15.5%)	340,924 (18.3%)	396,020 (21.3%)	437,244 (23.7%)	463,266 (25.7%)	489,355 (27.2%)

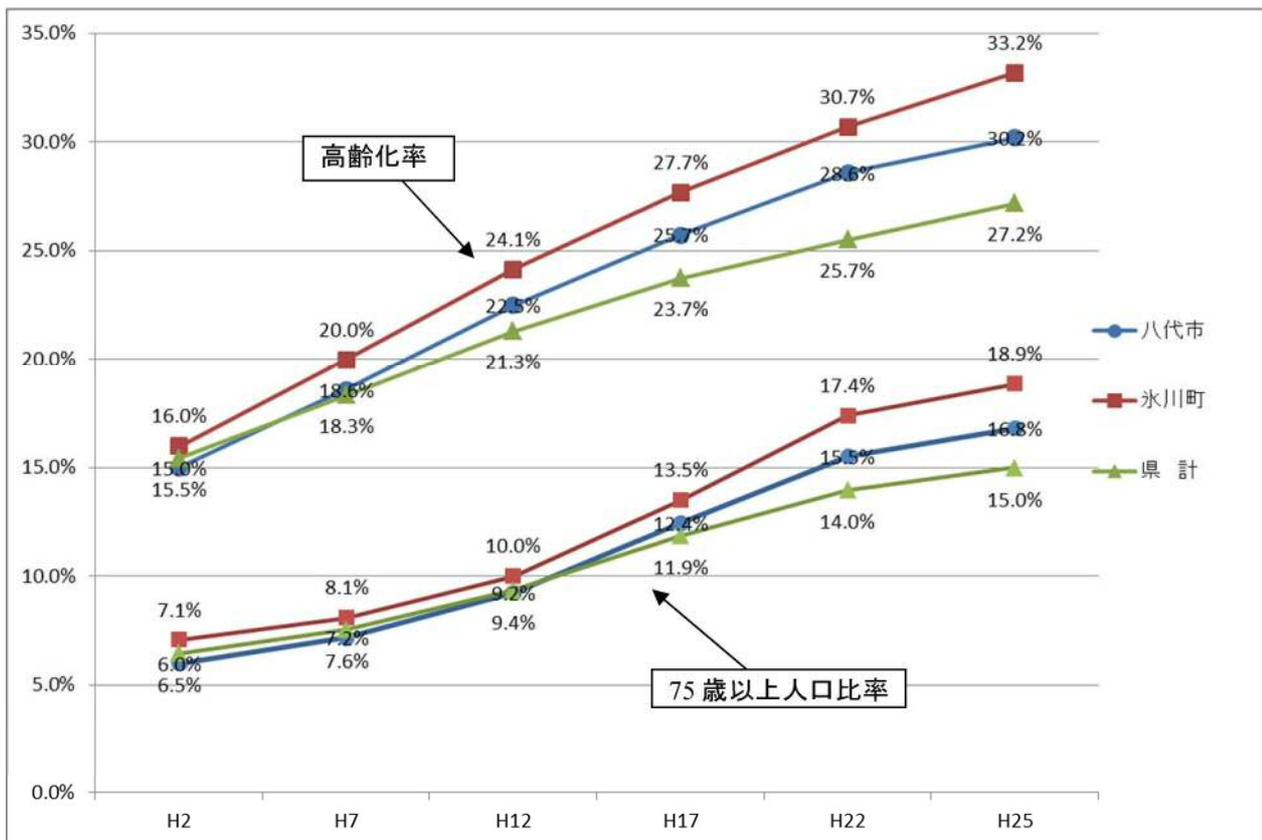
■ 75歳以上人口の推移

(資料) 国勢調査(各年10月1日現在)、H25人口動態調査
 ※()内は年齢3区分人口総数に占める後期高齢者(75歳以上人口)の比率
 (単位:人)

	H2	H7	H12	H17	H22	H25
管内計	9,792 (6.1%)	11,428 (7.2%)	14,374 (9.3%)	18,762 (12.5%)	22,486 (15.7%)	24,100 (17.0%)
八代市	8,754 (6.0%)	10,271 (7.2%)	13,000 (9.2%)	16,976 (12.4%)	20,275 (15.5%)	21,783 (16.8%)
氷川町	1,038 (7.1%)	1,157 (8.1%)	1,374 (10.0%)	1,786 (13.5%)	2,211 (17.4%)	2,317 (18.9%)
県計	118,958 (6.5%)	140,642 (7.6%)	174,117 (9.4%)	218,699 (11.9%)	253,926 (14.0%)	270,162 (15.0%)

■ 高齢化率、75歳以上人口比率の推移

※高齢化率(%) = (65歳以上の人口/全人口) × 100
 ※75歳以上人口比率(%) = (75歳以上の人口/全人口) × 100



八代地域の現況（データで見る八代地域）

福祉医療

■ 要介護認定の状況（第1号被保険者：65歳以上）

（資料）熊本県認知症対策・地域ケア推進課調べ

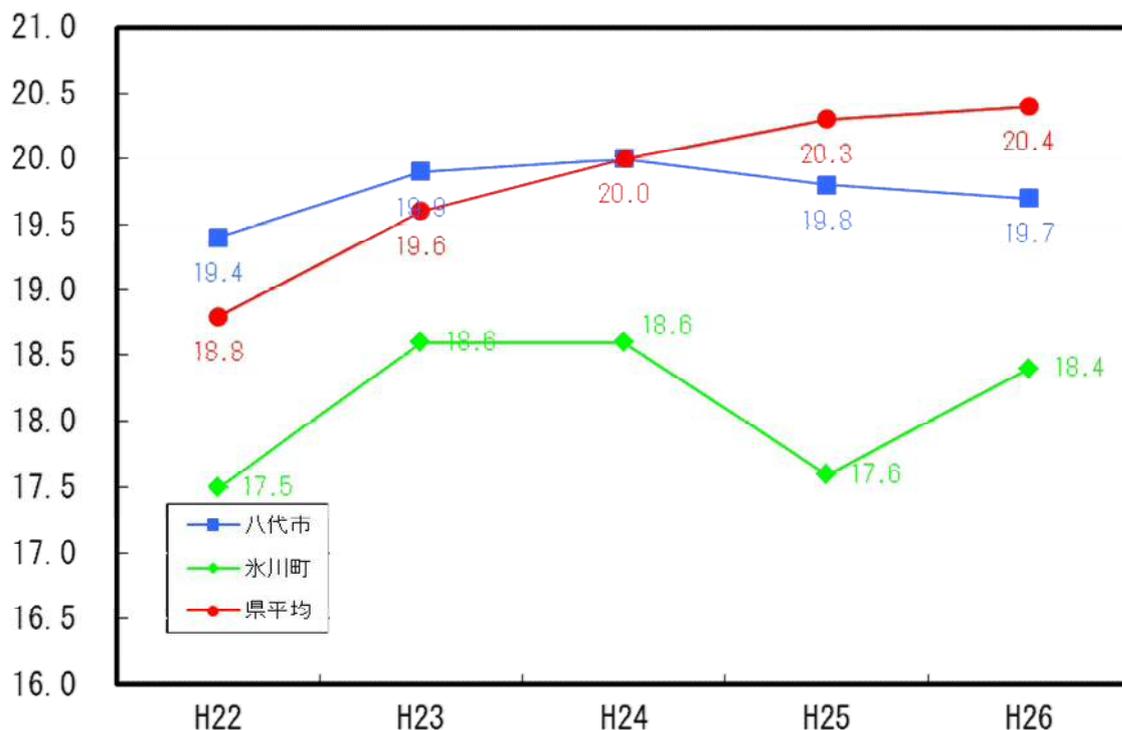
※（ ）内は認定率（第1号被保険者に占める65歳以上の認定者の割合）

（単位：人、（ ）内％）

	H22	H23	H24	H25	H26
管内計	7,986 (19.2)	8,195 (19.8)	8,389 (19.9)	8,535 (19.6)	8,720 (19.5)
八代市	7,315 (19.4)	7,487 (19.9)	7,665 (20)	7,824 (19.8)	7,961 (19.7)
氷川町	671 (17.5)	708 (18.6)	724 (18.6)	711 (17.6)	759 (18.4)
県計	86,796 (18.8)	90,859 (19.6)	94,659 (20)	100,041 (20.3)	103,196 (20.4)

■ 認定率の推移

※認定率（％）＝（要介護認定者数／第1号被保険者数）×100



○平成26年の認定率は八代市、氷川町いずれも県平均を下回っている。

○平成22年と比較すると、県平均は1.6%上昇し、管内においても八代市は0.3%、氷川町は0.9%上昇している。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■ 老人福祉施設、介護保険施設の整備状況

（資料）熊本県推計人口調査、熊本県高齢者支援課調べ

※人口（平成 26 年 10 月 1 日現在）※施設数及び定員（平成 27 年 2 月 1 日現在）
（定員 単位：人）

	高齢者人口 (65 歳以上)	老人福祉施設						介護保険施設			
		養護老人ホーム		軽費老人ホーム		有料老人ホーム		介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)		介護老人保健施設	
		施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
管内計	44,238	2	100	4	230	55	1,361	18	767	9	575
八代市	40,066	2	100	4	230	52	1,284	14	617	8	500
氷川町	4,172	0	0	0	0	3	77	4	150	1	75
県計	503,087	37	1,960	36	1,497	349	8,203	210	9,082	97	6,598

■ 障害者支援施設、児童養護施設、乳児院、保育所の設置数

（資料）熊本県障がい者支援課・子ども家庭福祉課・子ども未来課調べ

※障害者支援施設数（平成 27 年 4 月現在）※児童養護施設・乳児院・保育所（平成 27 年 4 月現在）

	障害者支援施設 (短期入所)	児童養護施設	乳児院	保育所
八代市	2	1	1	56
氷川町	2	0	0	6
管内計	4	1	1	62

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■保健医療施設

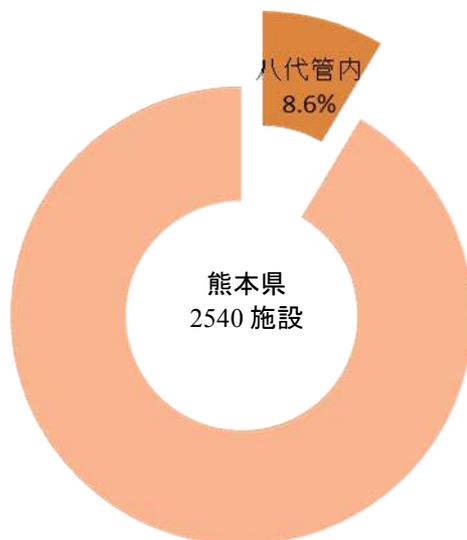
（資料）施設数及び病床数：熊本県医療政策課 医療施設一覧（H27.4.1 現在）
人口：熊本県統計調査課 H27.4.1 現在の人口と世帯数

	施設数					病床数				人口
	病院		一般診療所		歯科診療所	病院		一般診療所		
		うち療養型		うち療養型			うち療養型		うち療養型	
管内計	13	7	132	5	74	2,434	561	560	61	140,013
八代市	12	6	122	5	69	2,354	517	525	61	127,896
氷川町	1	1	10	0	5	80	44	35	0	12,117
県計	214	106	1,477	61	849	35,087	9,207	4,762	596	1,786,960

■人口1万人あたり施設数(単位:施設)

	八代管内	熊本県	人口1万人あたり施設数	
			管内	県
病院・一般診療所	145	1,691	10.35	9.46
歯科診療所	74	849	5.29	4.75
合計	219	2,540	15.64	14.21

【県内に占める八代管内の保健医療施設の割合】



八代地域の現況（データで見る八代地域）

産業と雇用

■産業別就業人口

（資料）平成22年国勢調査
（単位：人）

	第1次産業			第2次産業			第3次産業	分類不能	総計
	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	サービス業他		
管内計	9,514	165	272	38	5,443	9,014	39,455	1,405	65,306
八代市	7,816	160	271	37	4,924	8,391	36,377	1,285	59,261
氷川町	1,698	5	1	1	519	623	3,078	120	6,045
県計	76,721	2,782	5,504	447	65,882	105,570	555,227	22,111	834,244

管内の産業別就業人口の構成比



県内の産業別就業人口の構成比

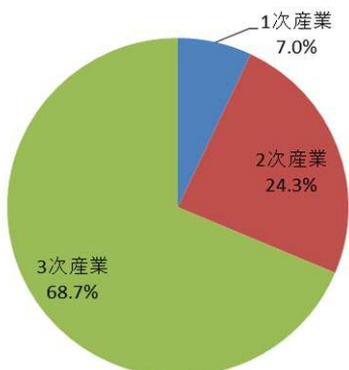


■産業別総生産額

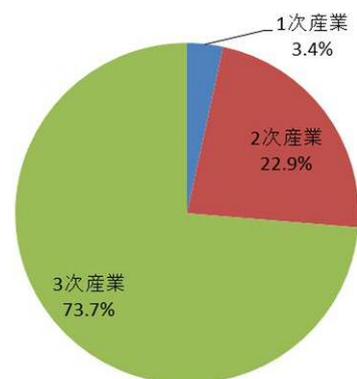
（資料）平成24年度市町村民所得推計
（単位：百万円）

	第1次産業			第2次産業		第3次産業	関税等加除	総計
	農業	林業	水産業	鉱工業	建設業	サービス業他		
管内計	27,953	840	206	78,248	22,149	283,405	3,072	415,873
八代市	23,886	830	203	77,787	20,048	266,264	2,895	391,913
氷川町	4,067	10	3	462	2,101	17,141	177	23,960
県計	163,594	9,318	16,469	983,815	301,923	4,128,506	41,698	5,645,323

管内の産業別構成比



県内の産業別構成比



※産業別構成比は関税等加除前のもの

八代地域の現況（データで見る八代地域）

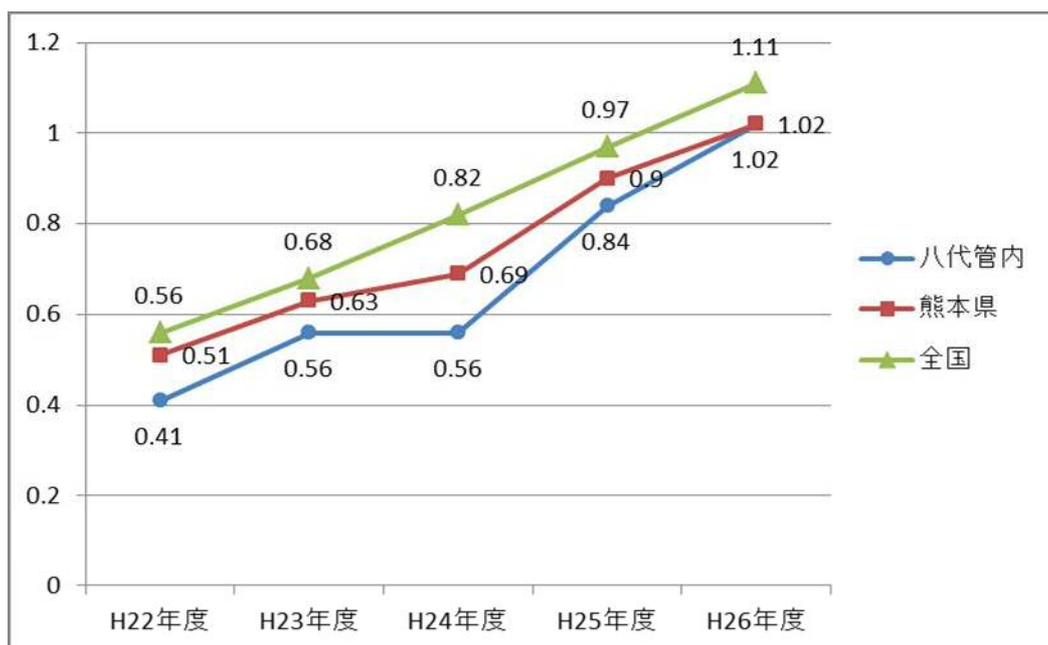
■一人当たりの所得（千円）

（資料）H24年度市町村民所得推計 H24熊本県人口推計



■有効求人倍率の推移

（資料）くまもと職業安定業務月報

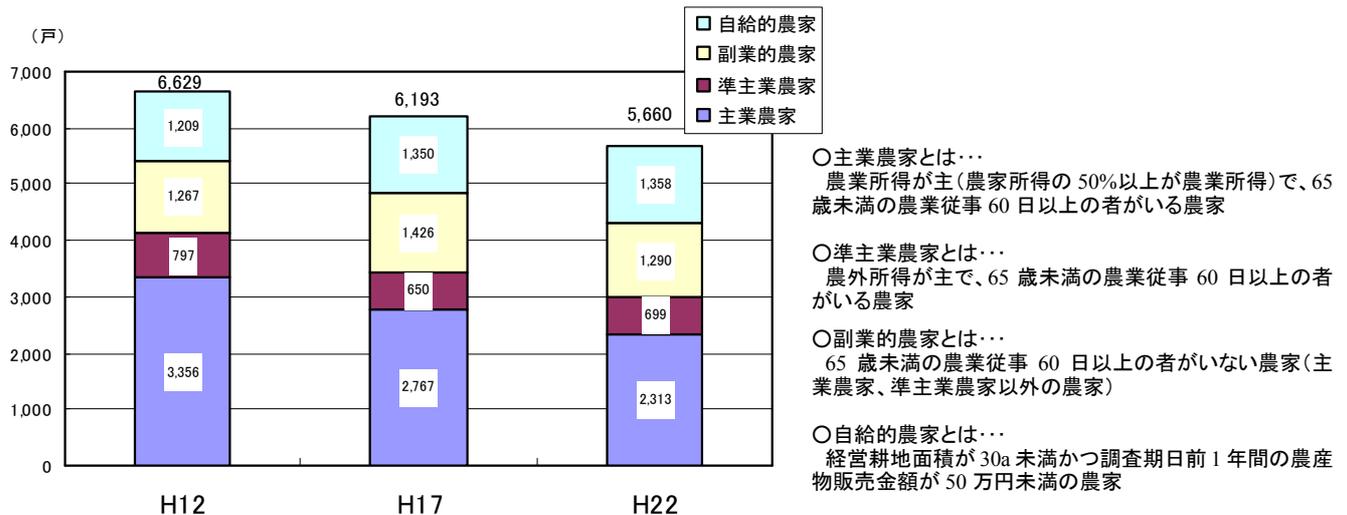


八代地域の現況（データで見る八代地域）

農業

■主副業別農家数

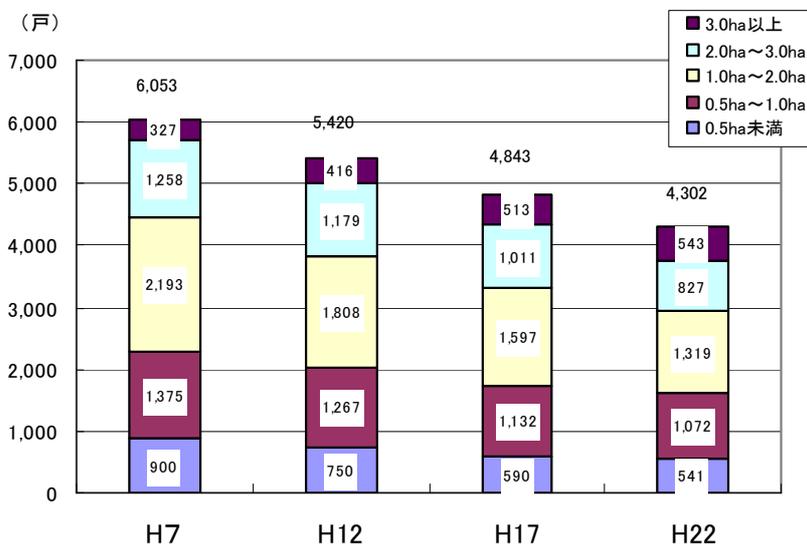
（資料）農林水産省「農業センサス」



○総農家数は、減少しており、平成22年には平成12年より、969戸減少し、5,660戸となっている。
○主業農家は454戸減少し、総農家に占める割合は40.9%である。

■経営耕地規模別農家数（販売農家）

（資料）農林水産省「農業センサス」



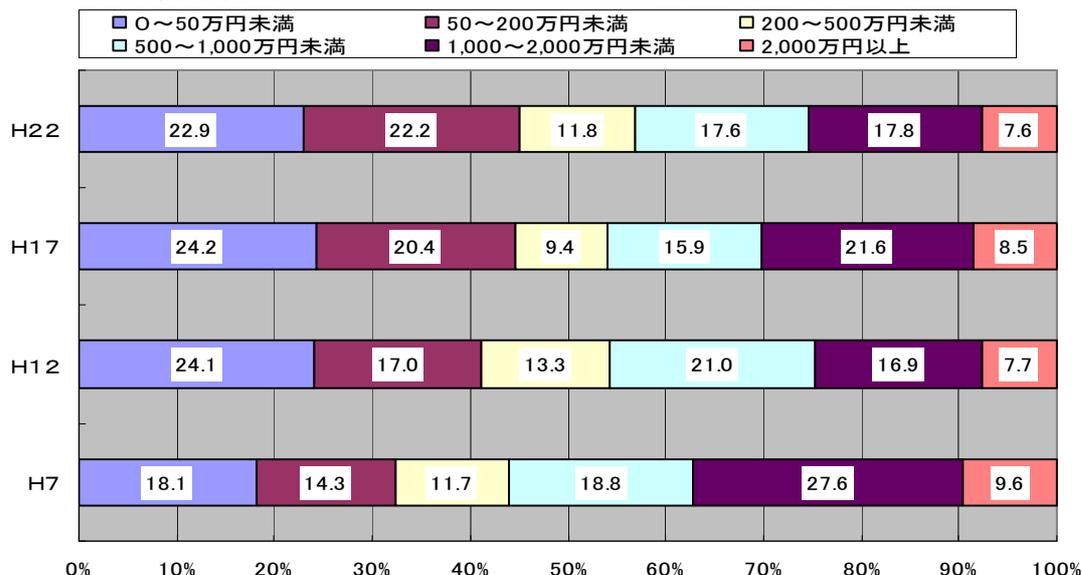
○販売農家とは…
経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家（主業農家+準主業農家+副業的農家）

○経営規模別にみると、3ha未満の各階層で減少し、特に1~2ha未満の中間層の減少が大きくなっている。
○一方で、3ha以上の農家は増加しており、割合は平成7年の5.4%から平成22年には12.6%となった。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■販売額別の農家構成

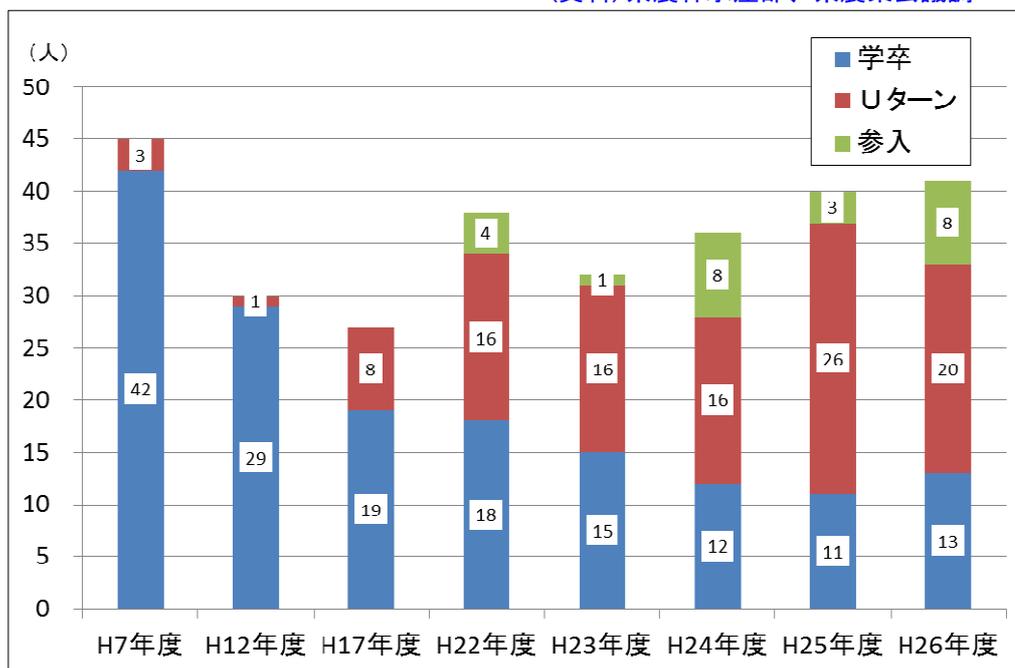
（資料）農林水産省「農業センサス」



○平成7年から平成22年までの構成割合の変化を見ると、農産物販売金額500万円未満の割合が32.4%から45.1%に増加したのに対し、1000万円～2000万円未満の割合は27.6%から17.8%に減少した。

■新規就農者数

（資料）県農林水産部、県農業会議調べ



○平成26年度は41人が就農し、特にUターン就農の割合が半数と高い割合を占めている。

■企業の農業参入

（資料）県農林水産部調べ

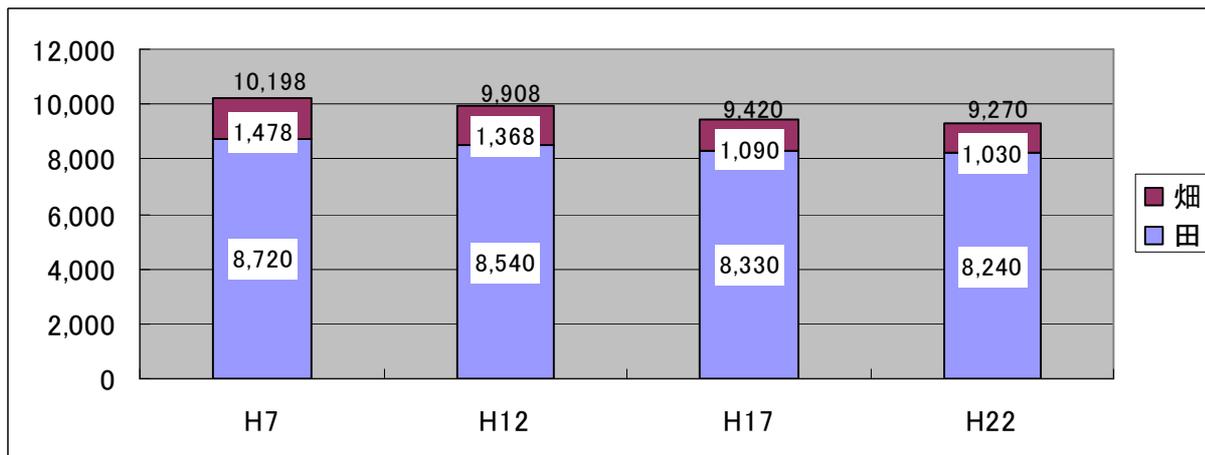
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	累計
八代地域	0	0	3	1	3	1	8
熊本県	11	19	20	21	27	22	119

※既参入企業のうち1社が本業の業績悪化に伴い営農を停止したため累計で1件減としている

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■ 耕地面積

（資料）熊本農林水産統計年報（九州農政局）
（単位：ha）



○八代地域の耕地面積は9,270haであり、内訳は田が8,240ha、畑が1,030haとなっており、田が全体の89%を占めている。

■ 主要品目の生産状況

（資料）H26 作物統計（農林水産省）、H25 年産熊本県主要野菜生産状況調査、H25 熊本県産果樹振興実績書、H25 花き生産実績、H26 畜産統計

区分	作付面積・飼養頭数		収穫量等
	数量 (ha, 頭)	県に占める割合 (%)	
水稲	4,894	13.1	187,500t
小麦	325	6.7	16,200t
メロン	102	14.9	18,647t
トマト	474	42.8	121,548t
イチゴ	88	31.8	10,355t
冬キャベツ	294	73.1	14,517t
冬レタス	157	39.3	11,524t
ショウガ	73	44.8	7,461t
パレイショ	182	47.0	8,479t
ブロッコリー	260	87.2	2,724t
なし	86	18.2	9,804t
晩白柚	67	85.9	0,979t
カラー	3.2	36.4	2,021 千本
トルコギキョウ	5.1	12.8	9,069 千本
茶	150	9.7	85t(荒茶)
いぐさ	759	94.8	—
乳用牛	1,054	2.3	—

- 注1) なし、晩白柚の収穫量等は生産量
 注2) カラー、トルコギキョウの収穫量等は出荷数量
 注3) 乳用牛の生産量等は生乳生産量
 注4) いぐさの収穫量は熊本県全体で11,600t

八代地域の現況（データで見る八代地域）

農地基盤整備

■ 農地の整備状況

（資料）平成25年度農地整備状況調査

八代市	地目	農振農用地 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)
	水田	5,955.5	4,808.3	80.7
	畑	198.0	12.0	6.1
	樹園地	196.0	0	0
	合計	6,349.5	4,820.3	75.9

氷川町	地目	農振農用地 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)
	水田	1,274.2	1,153.3	90.5
	畑	69.0	0	0
	樹園地	316.9	0	0
	合計	1,660.1	1,153.3	69.5

管内計	地目	農振農用地 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)
	水田	7,229.7	5,961.6	82.5
	畑	267.0	12.0	4.5
	樹園地	512.9	0	0
	合計	8,009.6	5,973.6	74.6

○管内の水田については、区画整理（用排水分離済み）が完了しているのは、5,961.6haで、82.5%の整備率となっている。（県全体の水田の整備率 70.6%）

■ 経営体育成基盤整備事業完了地区の集積実績

（資料）県農地整備課調べ

集積状況	事業実施前 (ha)		事業完了後 (ha)		担い手集積率 (%)	
	受益面積	担い手集積面積	受益面積	担い手集積面積	事業実施前	事業完了後
新屋敷地区	22.70	6.50	22.70	10.80	28.63	47.58
第二西区	53.80	34.77	53.80	36.62	64.63	68.07
合計	76.50	41.27	76.50	47.42	53.95	61.99

※平成15年度以降完了地区

○近年は整備済みの地区における施設の老朽化に伴う更新や暗渠排水、客土等の農地の汎用化に取り組むとともに、併せて担い手への集積にも取り組んでいる。

○また、経営体育成基盤整備事業完了地区の担い手の経営面積シェアが、54%から62%まで増加している。

（参考：県全体の経営体育成基盤整備事業完了地区（43地区）の担い手の経営面積シェアは、19%から41%に増加）

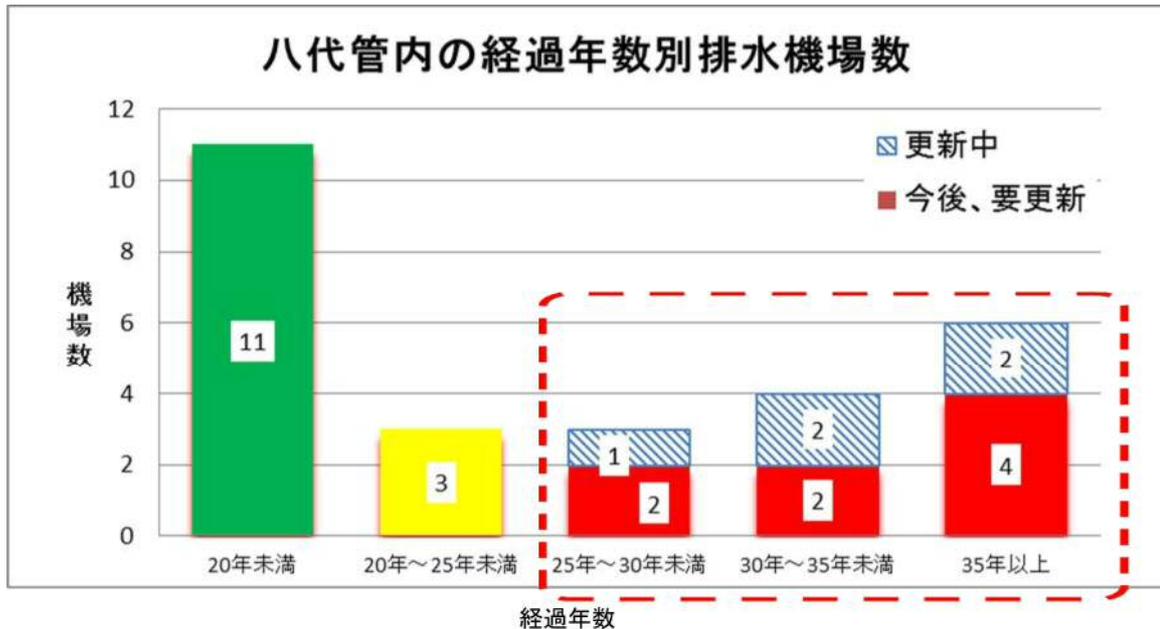
八代地域の現況（データで見る八代地域）

農業用施設

■ 排水機場の現状 （資料）熊本県南広域本部農林水産部農地整備課（平成27年3月現在） （単位：箇所）

経過年数	0～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～24年	25～29年	30～34年	35～39年	40年以上
排水機場数	3	2	3	3	3	3(1)	4(2)	3	3(2)

（ ）は内数で、更新中の排水機場数



○管内の36%の排水機場が25年以上となり更新時期を迎えています。



老朽化した排水機エンジン



排水機場

八代地域の現況（データで見る八代地域）

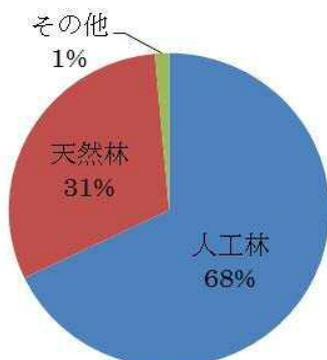
林業

■人工林・天然林別面積（民有林）

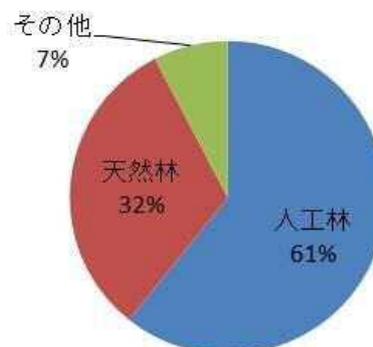
（資料）平成27年4月 県森林整備課調べ
（単位：ha）

	人工林	天然林	その他	計
管内計	27,526	12,399	601	40,526
八代市	27,394	12,296	572	40,262
氷川町	132	103	29	264
県計	241,932	125,833	30,412	398,177

■管内の人工・天然林別面積



■県内の人工・天然林別面積



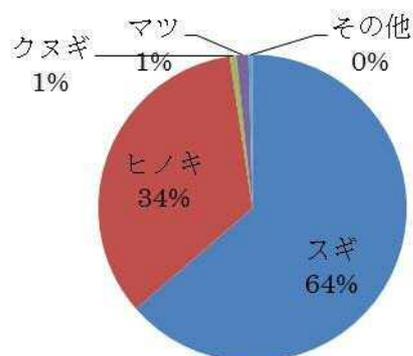
○八代地域の人工林面積（民有林）は、27,526haで、県の人工林面積（民有林）の11%を占めている。

■人工林の樹種別面積（民有林）

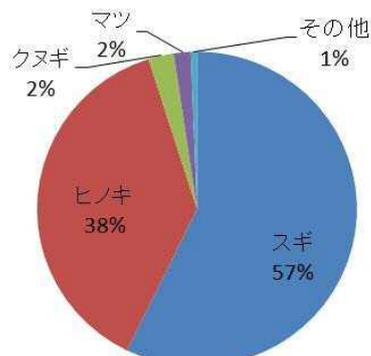
（資料）平成27年4月 県森林整備課調べ
（単位：ha）

	スギ	ヒノキ	クヌギ	マツ	その他	計
管内計	17,500	9,306	218	356	145	27,526
八代市	17,416	9,258	218	356	145	27,394
氷川町	84	48	—	—	—	132
県計	137,914	91,641	6,284	4,119	1,973	241,932

■管内の樹種別面積



■県内の樹種別面積



八代地域の現況（データで見る八代地域）

■ 林業就業者数の推移

（資料）昭和 60 年、平成 2、7、12、17 年は国勢調査の「A 林業」、
平成 22 年は国勢調査の「A 農業、林業」と「うち農業」の差
（単位：人）

	S60	H2	H7	H12	H17	H22
管内計	409	253	184	168	99	165
県計	4,472	3,589	3,009	2,405	1,655	2,782

※ 国勢調査では、林業就業者は、9 月末 1 週間に主として、林業に従事した者とされている。

平成 22 年は国勢調査の「A 農業、林業」と「うち農業」の差を元にしており、算出方法が異なることから、
数値の比較には注意を要する

■ 管内の推移



■ 熊本県の推移



■ 森林整備の実施状況

造林実績

（資料）県林森林整備課調べ
（単位：ha）

区分	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
管内計	66	52	121	127	97
八代市	66	52	121	127	97
氷川町	-	-	-	-	-
県計	834	851	868	806	925

間伐実績

（資料）熊本県林業統計要覧
（単位：ha）

区分	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
管内計	1,041	1,200	773	448	429
八代市	1,041	1,200	773	448	429
氷川町	-	-	-	-	-
県計	13,169	13,601	12,555	9,218	8,534

八代地域の現況（データで見る八代地域）

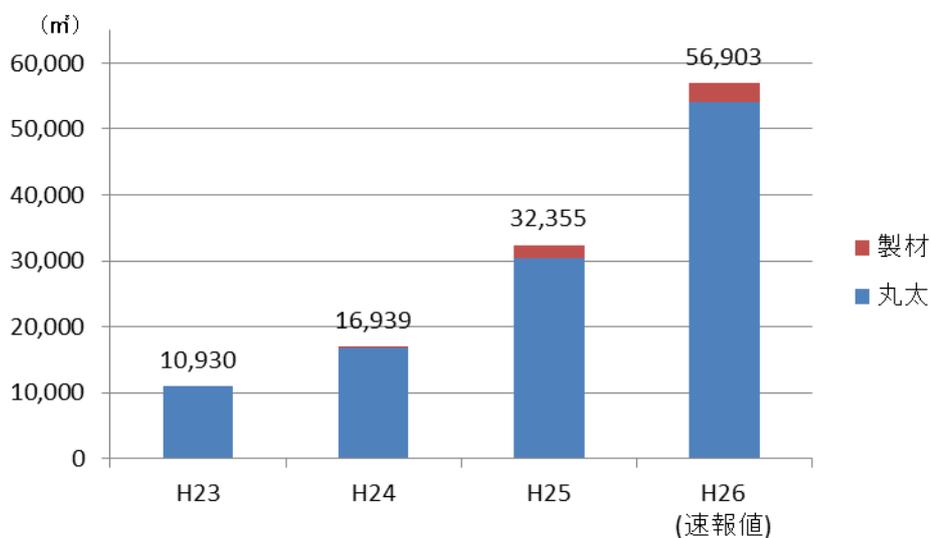
■ 八代港からの木材輸出状況（丸太、製材）

（資料：県林業振興課調べ）

（単位：m³）

品名	輸出先	材積				対前年度比
		H23	H24	H25	H26 (速報値)	
丸太	韓国	312	1,399	5,610	12,898	229.9%
	中国	4,369	3,731	17,634	33,661	190.9%
	台湾	6,249	11,784	7,114	7,126	100.2%
	ベトナム	0	0	0	291	-
	小計	10,930	16,914	30,358	53,976	177.8%
製材	韓国	0	0	31	49	158.1%
	中国	0	0	1,877	2,783	148.3%
	台湾	0	25	0	0	-
	ベトナム	0	0	89	95	106.7%
	小計	0	25	1,997	2,927	146.6%
合計		10,930	16,939	32,355	56,903	175.9%

※H26年度は速報値



八代地域の現況（データで見る八代地域）

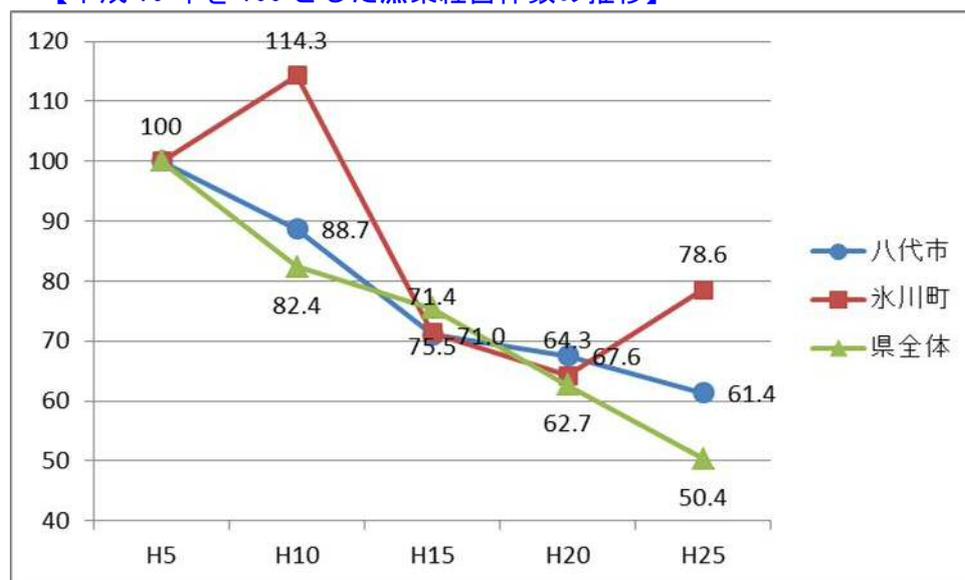
水産業

■市町村別漁業経営体数

（資料）漁業センサス

市町村／年	H5	H10	H15	H20	H25
管内計	401	363	285	270	251
八代市	373	331	265	252	229
氷川町	28	32	20	18	22
管内／県全体	5.8%	6.4%	5.5%	6.3%	7.2%
県全体	6,885	5,671	5,196	4,314	3,467

【平成10年を100とした漁業経営体数の推移】



○平成25年の管内の経営体数は、対平成5年比で63%となっており、県全体の50%に比べて減少率が低い。

■漁業許可数（H27.4.1現在）

（資料）熊本県県南広域本部水産課調べ

市町名	八代市	氷川町	合計
許可数	383	27	410

○管内における許可数は、410件で、主な種類は、えび流し網、げんしき網、かにかご、囲い刺し網及びくちぞこ刺し網である。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■漁船及び遊漁船行登録数

（資料）熊本県県南広域本部水産課調べ（H27年9月現在）

市町名	漁船	遊漁船業
管内計	503	7
八代市	464	7
氷川町	39	0
八代海全体	1,467	63

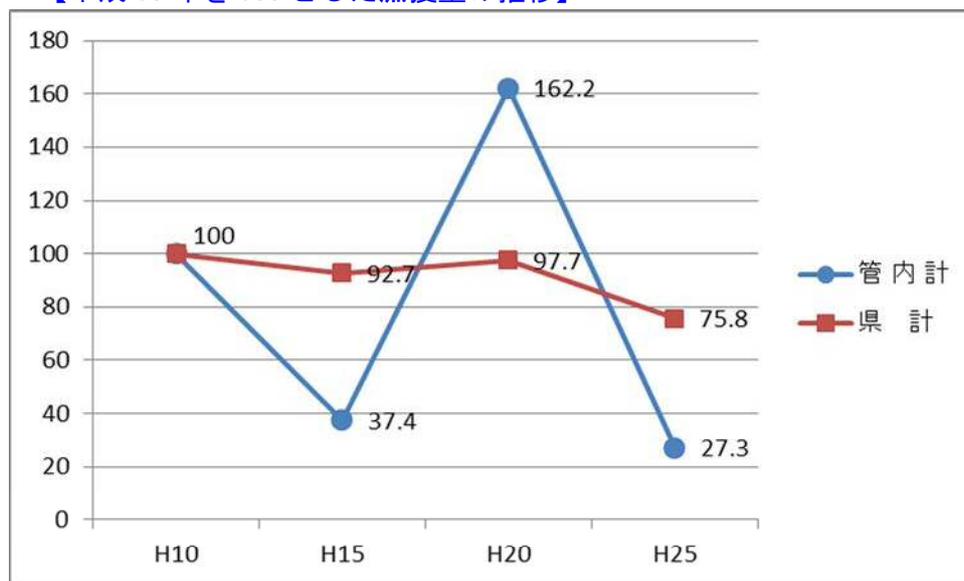
■漁獲量の推移

（資料）農林水産統計年報

（単位：トン）

	H10	H15	H20	H25
管内計	1,122	420	1,820	306
管内／県全体	3.9%	1.6%	6.5%	1.4%
県計	28,772	26,668	28,098	21,807

【平成10年を100とした漁獲量の推移】



○平成25年の八代管内漁獲量は306トンで、県全体に占める割合は1.4%である。

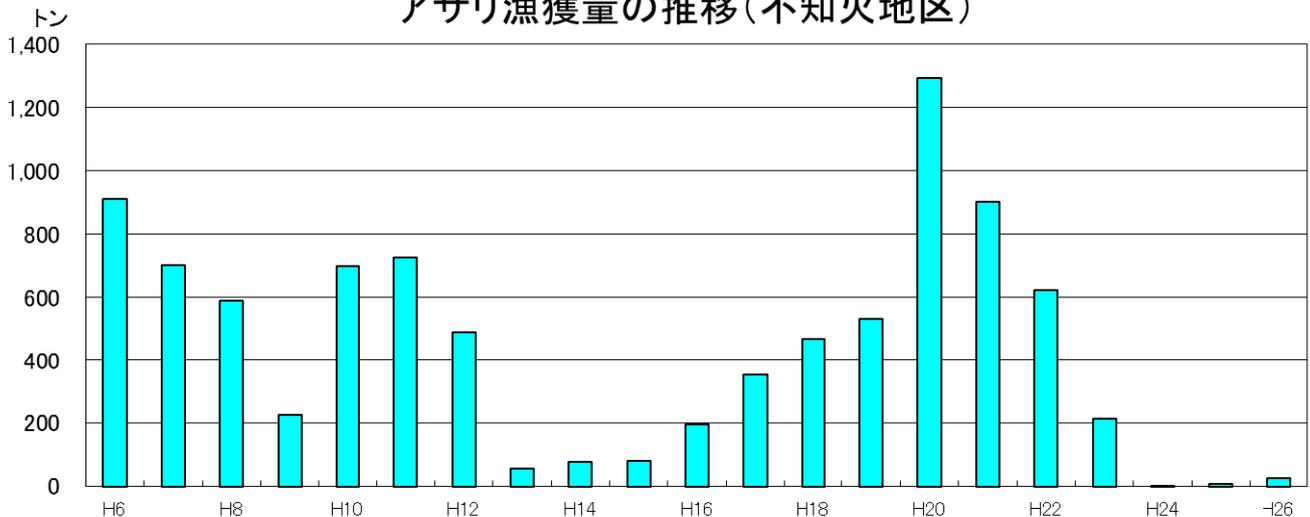
○平成10年時の漁獲量と比較すると、県計は2割強減少しているのに対し、八代管内はアサリ不漁を要因に7割以上減少している。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■アサリ再開漁業

（資料）熊本県県南広域本部水産課調べ

アサリ漁獲量の推移（不知火地区）

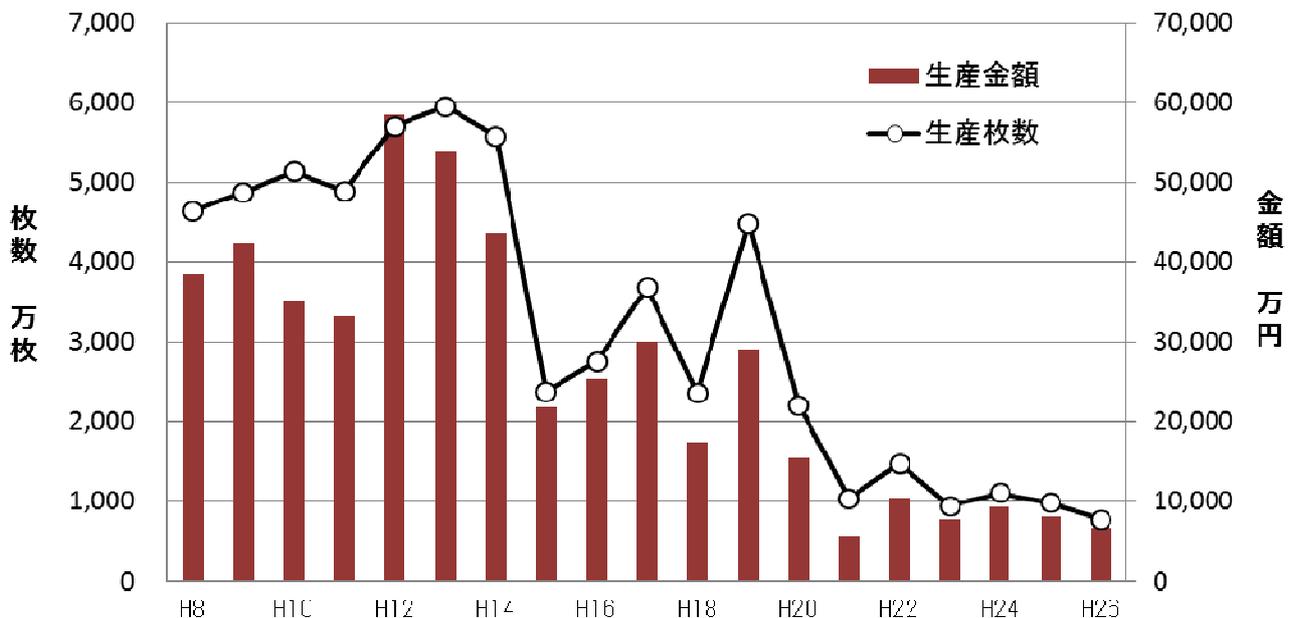


○八代地域のアサリの漁獲量は、平成 20 年の約 1,300t をピークに年々減少し、平成 25 年は約 8t、平成 26 年は約 26t と危機的な状況にある。

○アサリの漁獲量減少には、気象海況の変化や河川水流入量の増加等による大量へい死の他、アサリの成長を阻害するホトトギスガイやアサリを食べるナルトビエイの増加などが関係している。

■ノリ養殖漁業

（資料）熊本県県南広域本部水産課調べ



○ノリの近年における生産枚数は、ピーク時の 1/10 程度まで減少し、不作となっているが、その原因として、種付け時期の水温が高いことや年明けの栄養不足によりノリを収穫できる期間が短くなっていることがあげられる。

○また、経営体数も 10 年前の約 4 分の 1 にまで減少している。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

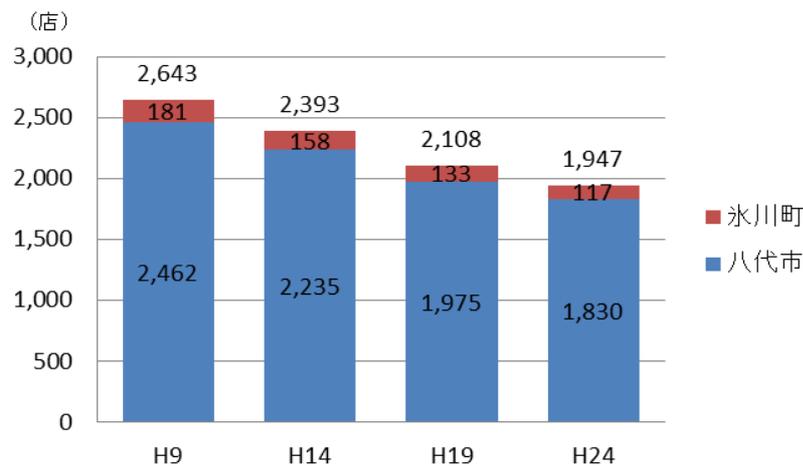
商業

■商店数の状況

（資料）平成 9、14、19 年は商業統計調査、平成 24 年経済センサス活動調査
（単位：店）

	H9	H14	H19	H24
管内計	2,643	2,393	2,108	1,947
八代市	2,462	2,235	1,975	1,830
氷川町	181	158	133	117
県計	27,757	25,696	22,976	21,697

※平成 24 年は経済センサス活動調査を元にしており、算出方法が異なることから、数値の比較には注意を要する

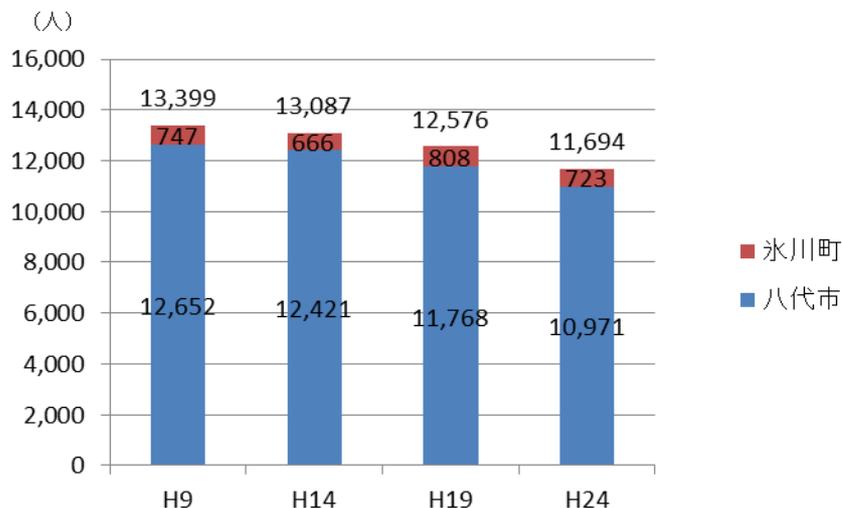


■従業員数の状況

（資料）平成 9、14、19 年は商業統計調査、平成 24 年経済センサス活動調査
（単位：人）

	H9	H14	H19	H24
管内計	13,399	13,087	12,576	11,694
八代市	12,652	12,421	11,768	10,971
氷川町	747	666	808	723
県計	155,828	162,563	150,135	144,596

※平成 24 年は経済センサス活動調査を元にしており、算出方法が異なることから、数値の比較には注意を要する



八代地域の現況（データで見る八代地域）

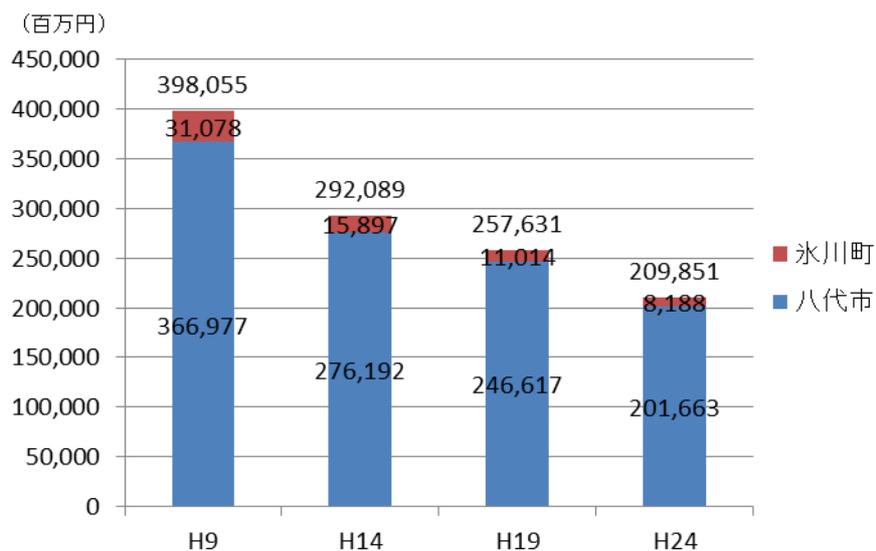
■年間商品販売額の状況

（資料）平成 9、14、19 年は商業統計調査、平成 24 年経済センサス活動調査

（単位：百万円）

	H9	H14	H19	H24
管内計	398,055	292,089	257,631	209,851
八代市	366,977	276,192	246,617	201,663
氷川町	31,078	15,897	11,014	8,188
県計	5,052,698	4,184,779	3,950,340	3,365,884

※平成 24 年は経済センサス活動調査を元にしており、算出方法が異なることから、数値の比較には注意を要する

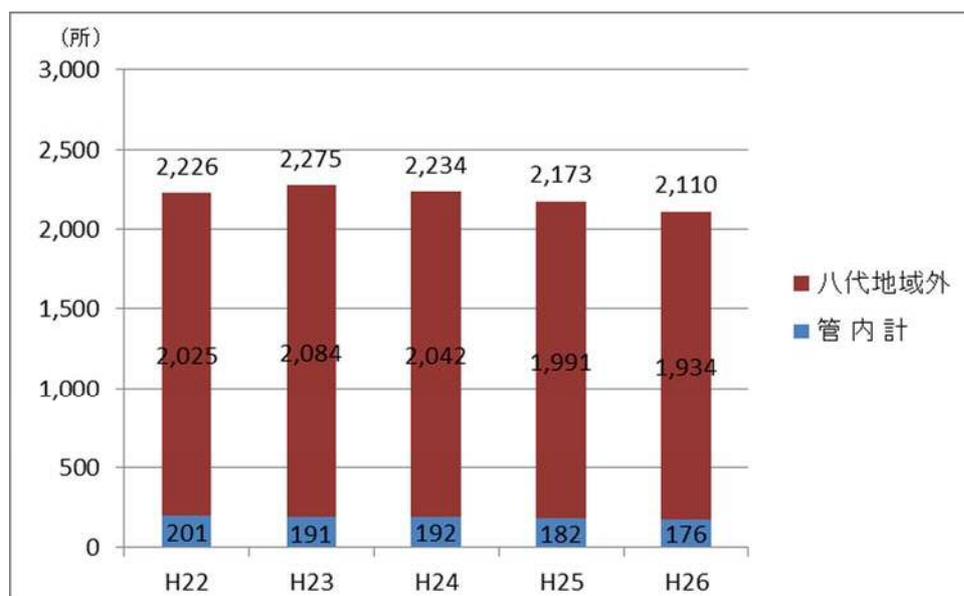


八代地域の現況（データで見る八代地域）

工業

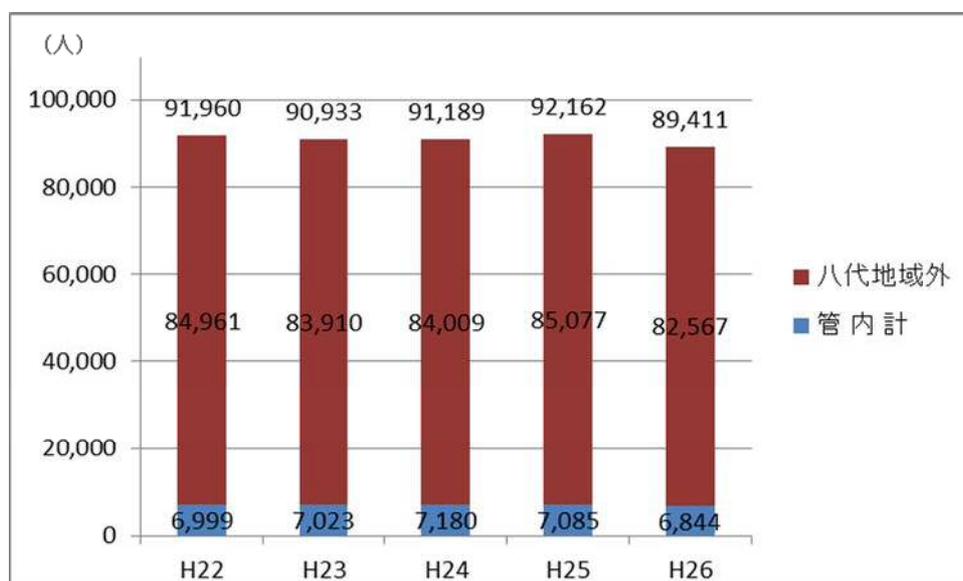
■製造加工を行なっている事業所数の状況（資料）工業統計調査（単位：所）
※H26年度は速報値

	H22	H23	H24	H25	H26
管内計	201	191	192	182	176
八代市	192	182	183	173	167
氷川町	9	9	9	9	9
県計	2,226	2,275	2,234	2,173	2,110



■製造加工を行なっている従業員数の状況（資料）工業統計調査（単位：人）
※H26年度は速報値

	H22	H23	H24	H25	H26
管内計	6,999	7,023	7,180	7,085	6,844
八代市	6,911	6,961	7,098	7,012	6,769
氷川町	88	62	82	73	75
県計	91,960	90,933	91,189	92,162	89,411



八代地域の現況（データで見る八代地域）

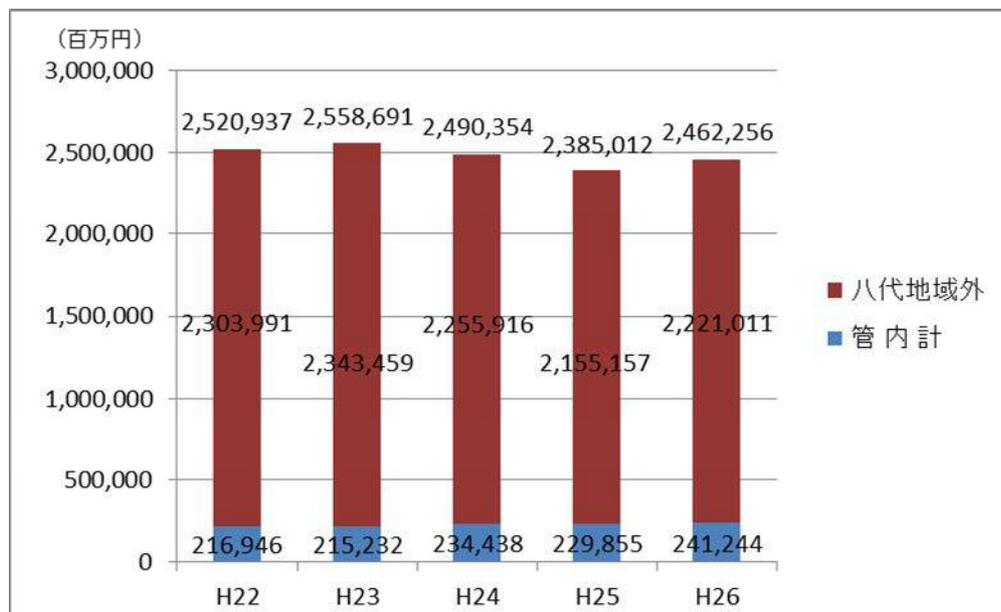
■ 製造品出荷額等の状況

（資料）工業統計調査

（単位：百万円）

※H26年度は速報値

	H22	H23	H24	H25	H26
管内計	216,946	215,232	234,438	229,855	241,244
八代市	216,419	214,713	233,788	229,288	240,686
氷川町	527	518	650	567	558
県計	2,520,937	2,558,691	2,490,354	2,385,012	2,462,256



八代地域の現況（データで見る八代地域）

港湾

■八代港の海上出入貨物の推移

（資料）平成26年八代港港湾取扱貨物実績

（単位：千トン）

八代港輸移出・入貨物の推移（フェリーを除く）



- 八代港は、平成23年度に国重点港湾に指定。物流の県内拠点としての役割は大きくなっている。
- 平成26年度は輸移出が約30万トンで前年度に比べ約8%減であったが、輸移入は約372万トンで前年度に比べ約2%増加した。

■八代港の県内シェア

【移出・移入の貨物量】（資料）熊本県港湾課・港湾取扱貨物実績（H26年/フェリーを除く）

	貨物量 (トン)		
	八代港	熊本県全体	県内シェア
移出	124,591	700,848	17.8%
移入	2,115,679	3,348,477	63.2%
小計	2,240,270	4,049,325	55.3%

注：「移出」とは、八代港から国内の港へ輸送された貨物。「移入」とは、国内の港から八代港へ輸送された貨物。

■ 輸出・輸入の貨物量、金額から見た八代港の県内シェア

（資料）熊本県港湾課・港湾取扱貨物実績（H26年/フェリーを除く）、外国貿易年表（長崎税関、H26年）

	貨物量 (トン)			輸出入額 (千円)		
	八代港	熊本県全体	県内シェア	八代港	熊本県全体	県内シェア
輸出	177,212	234,764	75.5%	14,219,192	31,146,078	45.7%
輸入	1,602,082	1,804,276	88.8%	48,210,895	106,488,307	45.3%
小計	1,779,294	2,039,040	87.3%	62,430,087	137,634,385	45.4%

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■八代港の輸出・輸入貨物

(資料) 熊本県八代港管理事務所調べ (H26 年/フェリーを除く)
(単位: トン)

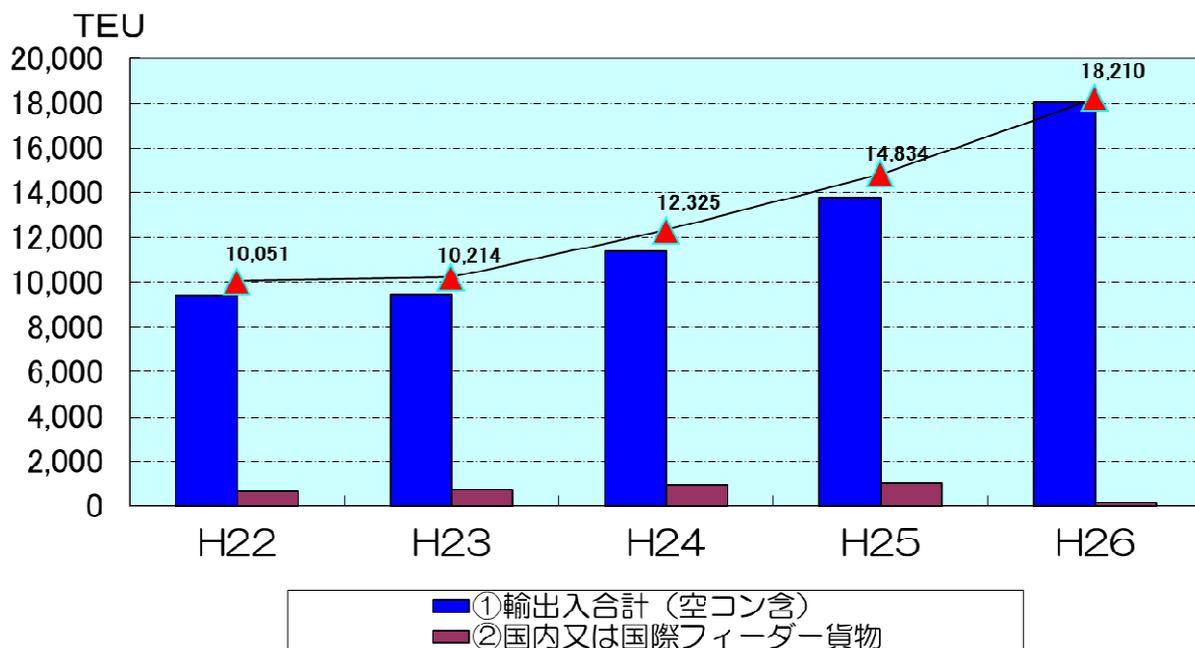
区分		1 位		2 位		3 位	
輸出 177,212	分類別	金属くず	69,920 (39.5%)	原木	44,156 (24.9%)	再利用資材	26,261 (14.8%)
	主な相手国	中国 韓国		中国 韓国		韓国 中国	
輸入 1,602,082	分類別	木材チップ	553,464 (34.5%)	石灰	347,981 (21.7%)	とうもろこし	327,434 (20.4%)
	主な相手国	ベトナム 南アフリカ		オーストラリア 韓国		アメリカ	

■ 八代港コンテナ取扱量の推移

(資料) 企業立地課ポートセールス推進室調べ (単位: TEU)

	H22	H23	H24	H25	H26
輸出 (実入り)	1,930	1,367	1,904	2,954	5,369
輸入 (実入り)	4,130	4,635	5,469	5,788	6,163
輸出入合計 (実入り)	6,060	6,002	7,373	8,742	11,532
①輸出入合計 (空コンテ含む)	9,429	9,463	11,367	13,812	18,046
②国内又は国際フィーダー貨物	622	751	958	1,022	164
①+② 総合計	10,051	10,214	12,325	14,834	18,210

八代港コンテナ取扱量の推移 (H22~H26)



○八代港のコンテナ取扱量はH22年と比較して、1.81倍に増加。
○平成26年八代港コンテナ取扱量は18,210TEUで、過去最高の取扱量となった。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

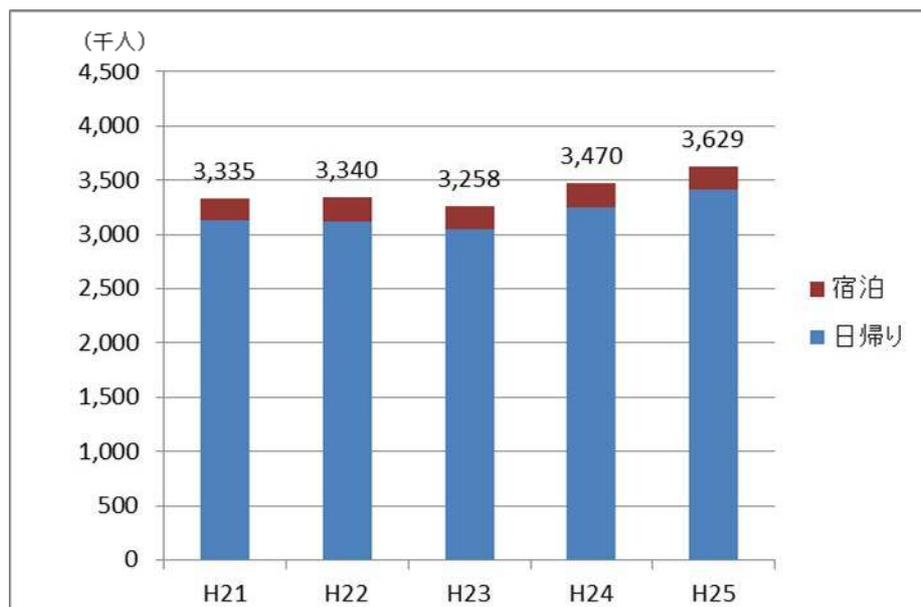
観光

■観光入込客数の状況

（資料）熊本県観光統計

（単位：人）

	H21	H22	H23	H24	H25
管内計	3,334,896	3,340,396	3,257,509	3,469,503	3,628,623
日帰り	3,135,838	3,118,480	3,049,101	3,243,123	3,409,204
宿泊	199,058	221,916	208,408	226,380	219,419
県計	59,138,629	57,237,563	58,061,797	59,196,119	61,189,335
日帰り	52,757,406	50,770,494	51,469,030	52,562,046	54,350,570
宿泊	6,381,223	6,467,069	6,592,767	6,634,073	6,838,765



■県全体に占める八代管内のシェア

	H21	H22	H23	H24	H25
八代管内計	5.6%	5.8%	5.6%	5.9%	5.9%
日帰り	5.9%	6.1%	5.9%	6.2%	6.3%
宿泊	3.1%	3.4%	3.2%	3.4%	3.2%

○管内の観光客数は4年間で8.9%増加している。

○県全体に占める八代管内の観光入込客のシェアは5~6%の間で推移している。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■八代港における大型クルーズ船受入れ状況（※H27.9.1時点）

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
国内船籍	5	2	1	2	1
海外船籍	0	2	0	1	11
合計	5	4	1	3	12



船名：クァンタム・オブ・ザ・シーズ
 寄港日：H27年 7/23, 9. 20, 10/1
 総トン数：16.8万t
 全長：348m
 乗客定員：4,180名
 船社：ロイヤル・カリビアン・インターナショナル



船名：スカイシー・ゴールデン・エラ
 寄港日：H27年 6/4
 総トン数：7.2万t
 全長：248m
 乗客定員：1,814名
 船社：スカイシー・クルーズ



船名：ボイジャー・オブ・ザ・シーズ
 寄港日：H27年 6/29, 7/6, 8/29
 総トン数：13.8万t
 全長：310m
 乗客定員：3,286名
 船社：ロイヤル・カリビアン・インターナショナル



船名：コスタ・アトランチカ
 寄港日：H26年 10/18
 総トン数：8.6万t
 全長：292m
 乗客定員：2,680名
 船社：コスタ・クルーズ

八代地域の現況（データで見る八代地域）

基盤整備

■道路改良率

（資料）道路現況調査（平成 27 年 4 月 1 日現在）

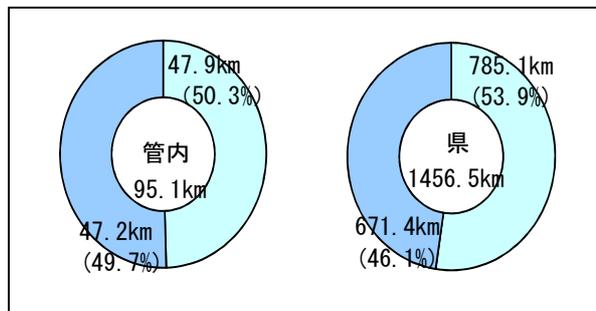
道路種別	管内計			県計
	実延長 (km)	改良済延長 (km)	改良率 (%)	改良率 (%)
一般国道（県管理路線）	57.4	47.8	83.3%	94.9%
一般国道小計	57.4	47.8	83.3%	94.9%
主要地方道	104.3	69.6	66.7%	77.1%
一般県道	185.6	93.9	50.6%	56.4%
県道小計	289.9	163.6	56.4%	64.6%
合計	347.3	211.4	60.9%	72.2%

○八代管内の一般国道（県管理路線）、主要地方道、一般県道の改良率は県平均と比べて低くなっており、交通基盤の整備が重要となっている。

■河川整備状況（法河川）

（資料）河川整備現況調査（平成 27 年 3 月 31 日現在）

- 60mm/h 対応整備済延長(km)
- 未整備延長(km)



○管内には、一級河川である球磨川や二級河川の氷川等があり、流域の安全な生活環境を維持するため、河川整備を進める必要がある。

○また、河川の持つ多面的な機能を活かした川づくりにも取り組んでいる。

八代地域の現況（データで見る八代地域）

■土砂災害危険箇所整備率（資料）熊本県砂防課（平成27年3月31日現在）

危険箇所	土石流危険渓流			地すべり危険箇所			急傾斜地崩壊危険箇所		
対策事業種別	砂防事業			地すべり対策事業			急傾斜地崩壊対策事業		
対策箇所	土石流危険渓流ランクⅠ	うち概成箇所	整備率	地すべり危険箇所	うち概成箇所	整備率	急傾斜地崩壊危険箇所ランクⅠ	うち概成箇所	整備率
管内計	241	55	22.8%	13	9	69.2%	197	46	23.4%
県計	2,120	435	20.5%	107	63	58.9%	2,793	731	26.2%

注1：「土石流危険渓流ランクⅠ」とは、人家5戸以上等に流出する恐れがある土石流危険渓流

注2：「地すべり危険箇所」とは、地すべりの発生する恐れのある箇所で、地すべり防止法第51条に基づく国土交通大臣所管となりうるもの

注3：「急傾斜地崩壊危険箇所ランクⅠ」とは、被害想定区域内に人家5戸以上等がある箇所

注4：「概成」とは、危険渓流や危険箇所において概ね災害防止施設が整備されている状態で、詳細は以下のとおり

- ・土石流危険渓流では、砂防えん堤が1基以上設置されている渓流
- ・地すべり危険箇所及び急傾斜地崩壊危険箇所では、想定される現象に対する防止施設が整備されている箇所

○土砂災害とは、土石流、地すべり、急傾斜地崩壊を総称したものの。
 ○管内の、保全人家戸数5戸以上の土石流危険渓流における砂防工事整備率は22.8%、地すべり危険箇所における地すべり防止施設の整備率は69.2%、保全区域内に人家が5戸以上ある急傾斜地危険箇所の整備率は23.4%となっており、今後とも整備を推進していく必要がある。

■汚水処理人口普及状況（資料）熊本県下水環境課（平成27年3月31日現在）

区分	行政人口	汚水処理人口	汚水処理普及率	下水道		農業集落排水施設等		合併処理浄化槽等		コミプラ	
				下水道処理人口	下水道整備率	住宅用途合併処理浄化槽設置済み人口	浄化槽人口普及率	住宅用途合併処理浄化槽設置済み人口	浄化槽人口普及率	コミプラ処理人口	コミプラ処理人口普及率
管内計	143,495	93,899	65.4%	70,125	48.9%	21,724	15.1%	21,724	15.1%	0	0.0%
八代市	130,911	83,041	63.4%	59,714	45.6%	21,277	16.3%	21,277	16.3%	0	0.0%
氷川町	12,584	10,858	86.3%	10,411	82.7%	447	3.6%	447	3.6%	0	0.0%
県計	1,810,707	1,533,058	84.7%	1,197,839	66.2%	256,382	14.3%	256,382	14.3%	562	0.0%

注：「汚水処理人口普及率」とは、下水道、農業集落排水施設等、合併処理浄化槽等、コミュニティプラント（コミプラ）の汚水処理人口の合計を行政人口（住民基本台帳人口）で除した指標

○地域の生活環境の改善、河川、湖沼等の公共用水域の水質保全のために、汚水処理施設は欠かせない生活基盤の一つである。
 ○現在、管内の汚水処理人口普及率は65.4%と低く、汚水処理施設の整備が急がれている。